シアタープロジェクター

形名 XV-Z2000（エックス ブイ ゼット）

取扱説明書

このたびはシャープシアタープロジェクターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
ご使用の前に、「安全に正しくお使いいただくために」を必ずお読みください。‥‥‥**5**ページ

- 保証書は、必ず購入店名・購入日などの記入を確かめてお受け取りください。
- 製造番号は品質管理上重要なものですから、商品本体に表示されている製造番号と保証書に記載されている製造番号とが一致しているか、お確かめください。
- なお、この取扱説明書は、保証書とともに必ず保管してください。万一、使用中にわからないことや具合の悪いことがおきたとき、きっとお役に立ちます。

もくじ

まず

はじめに

基本的な使いかた

設置する

接続する

さあ

使ってみる

便利な機能

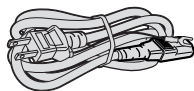
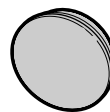
こんなときは

付録

付属品について

付属品

リモコン

単3形乾電池（2本）

電源コード（1.8m）

レンズキャップ
（装着出荷）

- 取扱説明書（本書）
- 保証書（箱に貼り付け）

別売品のご案内

■3RCA/15ピンミニD-sub変換ケーブル（3m）	AN-C3CP
■DVI/15ピンミニD-sub変換アダプター（20cm）	AN-A1DV
■DVIデジタルケーブル（3m）	AN-C3DV
■ランプユニット	AN-K2LP

- 本製品のICチップの中には、米国テキサスインスツルメンツ社の営業秘密が含まれているICチップがありますので、その内容をコピー、改変、適応、翻訳、配布、リバースエンジニアリング、リバースアセンブリングもしくはディスアセンブリングをすることは禁じられております。
- DLP™（Digital Light Processing）、DMD™（Digital Micromirror Device）は米国テキサスインスツルメンツ社の商標です。
- Microsoft®、Windows®は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国々における登録商標です。
- PC/ATは米国IBM社の登録商標です。
- Macintosh®はアップルコンピュータ・インクの米国および、その他の国における登録商標です。
- その他の製品名等の固有名詞は各社の商標または登録商標です。

本書で使われているマークについて

お知らせ………特に気をつけていただきたい内容について説明しています。

メモ ………操作や設定時の制限事項や注意する内容について説明しています。

- 画面表示やイラストは、説明のために簡略化してありますので、実際とは多少異なります。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。
その表示を無視して誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。
内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

警告 人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。

注意 人がケガをしたり財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています。

図記号の意味

記号は、気をつける必要があることを表しています。

記号は、してはいけないことを表しています。

記号は、しなければならないことを表しています。

警告

煙が出ている、変なにおいや音がするなど異常状態のときは電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

電源プラグを抜く

- 画面が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて修理を販売店にご依頼ください。

キャビネットは絶対にあけない

分解禁止

- この機器のキャビネットは外さないでください。内部には電圧の高い部分がありますので感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

高圧注意

- サービスマン以外のかたはキャビネットをあけないでください。
内部には高電圧部分が数多くあります。
万一、さわると危険です。

分解禁止

- この機器を改造しないでください。
火災・感電の原因となります。

つづく

安全に正しくお使いいただくために（つづき）

⚠警告

表示された電源電圧で使用する

100V使用

● 表示された電源電圧（交流100～240ボルト）以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

プロジェクターを落としたときは

電源プラグを抜く

● この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。

レンズをのぞかない

禁止

● 投映中にレンズをのぞかないでください。
眼を傷める原因となります。
特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

高温部には触れない

禁止

高温注意

● 投映中は、排気孔、ランプユニットカバーやその周辺は高温になります。表面が十分冷えるまで触れないでください。

不安定な場所に置かない

禁止

● ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてケガの原因となります。

天井へ取り付けるときは

販売店に依頼する

● この機器を天井へ設置する場合は、必ず販売店へご依頼ください。
取り付けが不確実ですと、落下などにより感電・ケガの原因となります。

内部にものや水などを入れない

禁止

● この機器の開口部(通風孔など)から金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

電源プラグを抜く

● 異物や水がこの機器の内部に入った場合は、まず本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

上には水の入ったものや小さな金属物を絶対に置かない

水ぬれ禁止

● こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

● 水を入れたり、ぬらしたりしないでください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

雷が鳴り出したら電源プラグには触れない

接触禁止

● 感電の原因となります。

⚠警告

電源プラグの刃および刃の付近にホコリや金属物が付着した状態では使用しない

ほこりを取る

- ホコリや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室での使用禁止

- 火災・感電の原因となります。

電源コードを破損するようなことはしない

禁止

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本体の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードを敷物などで覆ってしまうと、気付かずに、重いものをのせてしまうことがあります。

禁止

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

交換を依頼する

- 電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠注意

油煙、湯気、湿気、ホコリなどが多い場所に置かない

禁止

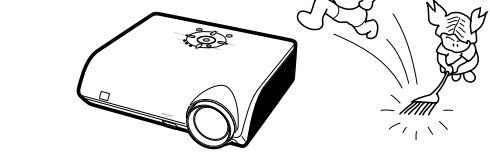
- 湿気やホコリの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

禁止

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

通風孔をふさがない

禁止

- この機器の通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
冷却ファン部〔排気側〕は、壁などから20cm以上はなして設置してください。

禁止

- 次のような使い方はしないでください。
この機器を横倒しや、レンズを下にむけて逆さまにする。押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。じゅうたんや布団の上に置く。テーブルクロスなどを掛ける。

重いものを置かない

禁止

- この機器の上に重いものを置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり、落下してケガの原因となることがあります。

禁止

- この機器に乗らないでください。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
倒れたり、こわれたりしてケガの原因となることがあります。

置台に据えつけるときは

転倒防止

- キャスター付き置台にこの機器を設置する場合にはキャスター止めをしてください。動いたり、倒れたりして、ケガの原因となることがあります。

つづく

安全に正しくお使いいただくために（つづき）

⚠注意

設置場所を変える場合は必ず接続線をはずす

接続線をはずす

● 設置場所を変える場合は、機器本体の電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続線等外部の接続線を外したことを確認の上、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近づけない

禁止

● コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

禁止

● 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

旅行などで長時間ご使用にならないときは電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

● 安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

水ぬれ禁止

● ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

確実に差し込む

● 差し込みが不完全ですと発熱したり、ホコリが付着して、火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

禁止

● 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

お手入れのときは電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

● 安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

3年に一度は機器内部の清掃を販売店に依頼する

注意

● 内部にホコリがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、内部掃除費用については販売店などにご相談ください。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

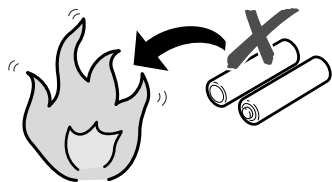
⚠注意

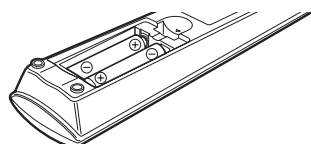
電池は幼児の手の届く所に置かない

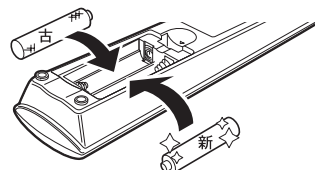
● 電池は飲み込むと、窒息の原因や胃などに止まると大変危険です。飲み込んだ恐れがあるときは、ただちに医師と相談してください。

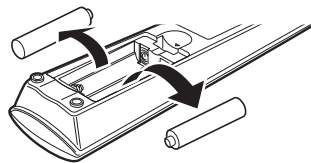
電池の液が漏れたときは素手でさわらない

● 電池の液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
● 皮膚や衣類に付着した場合は皮膚に傷害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚の炎症など傷害の症状があるときは、医師に相談してください。

電池は火や水の中に投入したり、加熱・分解・改造・ショートしない 乾電池は充電しない

● 電池の破れつ・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池はプラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、機器の表示どおり正しく入れる

● 間違えると電池の破れつ・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない 新しい電池と古い電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

● 電池の破れつ・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池を使い切ったときや、長時間使わないときは、電池を取り出す

● 電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ故障、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

使用上のご注意

設置するときは次の点にご注意ください

ホコリ、湿気の少ないところへ

■ 湿気やホコリの多い場所、油煙やタバコの煙の当たるような場所に置くと、レンズ・ミラー等の光学部品に汚れが付着し、映像がぼやけたり、暗く見にくくなります。

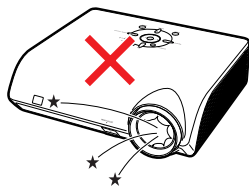
直射日光や、照明の光はさけてください

■ スクリーンに直接光があたると画面が白っぽくなり見にくくなります。明るい光が入る部屋ではカーテンを引くようにしてください。(できるだけ、暗い環境でお使いいただくことをおすすめします。)

プロジェクターは12°以上傾けないようにしてください

■ 設置範囲は±12°までです。

衝撃を与えないでください

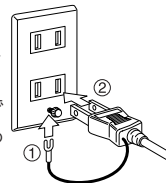
■ レンズには、特にご注意いただき表面を打ったり傷をつけたりしないようご注意ください。

高温、低温の場所はさけてください

■ 使用温度範囲　　5℃～35℃
■ 保存温度範囲　　－20℃～60℃

排気孔や吸気孔をふさがないように

■ 排気孔側に壁やモノがある場合は、20cm以上スキ間をあけて設置してください。
■ 排気孔や吸気孔をふさがないよう設置してください。
■ 冷却ファンがふさがれると、内部温度上昇のため保護回路が働き自動的に待機状態になる場合があります。このようなときはプロジェクターの電源コードをコンセントから抜き、10分以上そのままにしてください。その後排気孔や吸気孔をふさがない場所に設置してもう一度電源コードをつなぎ電源を入れます。
■ プロジェクターをお買い上げ後最初に電源を入れたとき、排気孔からわずかに匂いがする場合がありますが、ご使用にともない、なくなります。

電源コードの接続について

■ 電源コードをコンセントに差し込む前に、必ずアースコードを取り付けてください。
■ アースコードを取り外すときは、必ずプラグをコンセントから抜いた後、行ってください。

取り扱い時のご注意

■ 取り扱うときは、衝撃を与えないようにしてください。故障の原因となります。レンズには特にご注意ください。また、長時間使用しない、または収納する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続線をはずしたことを確認の上行ってください。
■ 取り扱うときは、レンズ部を持たないでください。
■ 長時間使用しない場合、または収納する場合は、レンズキャップを取り付けてください。(**11**ページ)
■ 直射日光が当たる場所や、熱器具などの近くに放置しないでください。プロジェクターの変形・変色の原因になります。

接続機器について

■ プロジェクターにコンピュータやAV機器を接続するときは、プロジェクターおよび接続する各機器の電源を必ず切ってから接続してください。
■ 接続のしかたは、プロジェクターおよび接続する各機器の取扱説明書をご覧ください。

使用時のご注意

目をときどき休めてください

■ 連続して長い時間画面を見ていると目が疲れますので、ときどき目を休めてください。

ランプ交換に関しての注意

■ 「ランプについて」(**58**ページ)もご覧ください。
■ 廃棄の方法について
このプロジェクターに使用している高輝度放電ランプ(HIDランプ)は、微量な水銀を含有しています。これらの含有物は、環境考慮の観点から法的に規制されている場合があります。廃棄やリサイクルについては、関連法規およびお住まいの地域の条例などに従って処理してください。

ランプユニットに関しての注意

■ ランプが破裂するとガラス破片でケガをするおそれがあります。ランプが破裂した場合には、お近くの販売店にご連絡ください。

海外でご使用になるときは

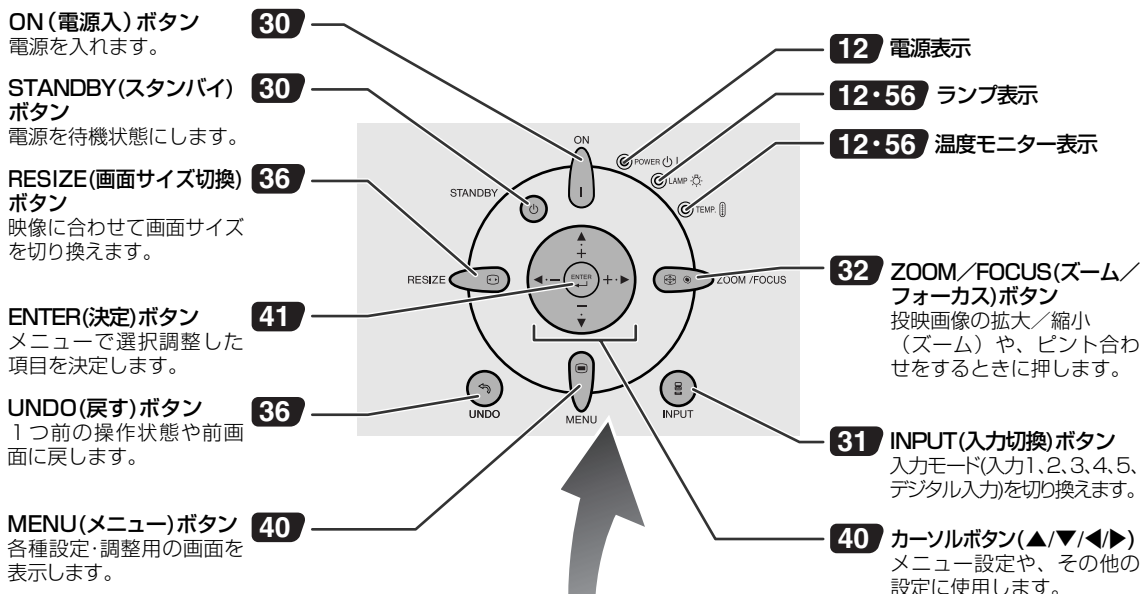
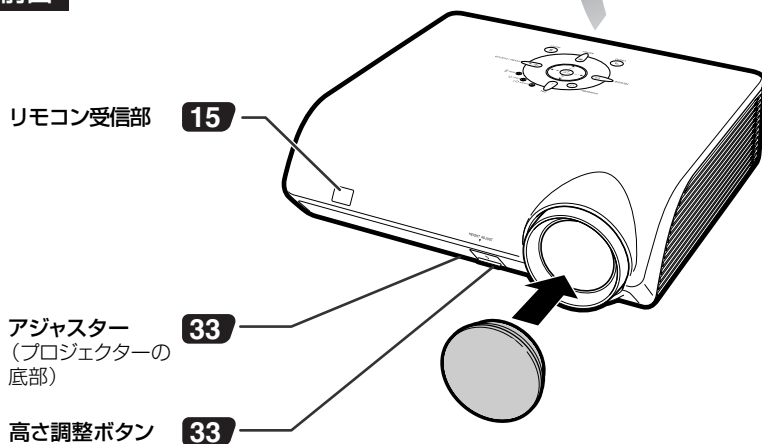
■ お使いになる国や地域によって、電源電圧やプラグの形状が異なります。海外でご使用になるときは、その国に合った電源コード(別売品)をご使用ください。

• この製品は、クラスA情報技術装置です。住宅環境で使用する場合は、電波障害を発生させる恐れがあります。その際、この製品の利用者は適切な手段を講ずることが必要とされることがあります。

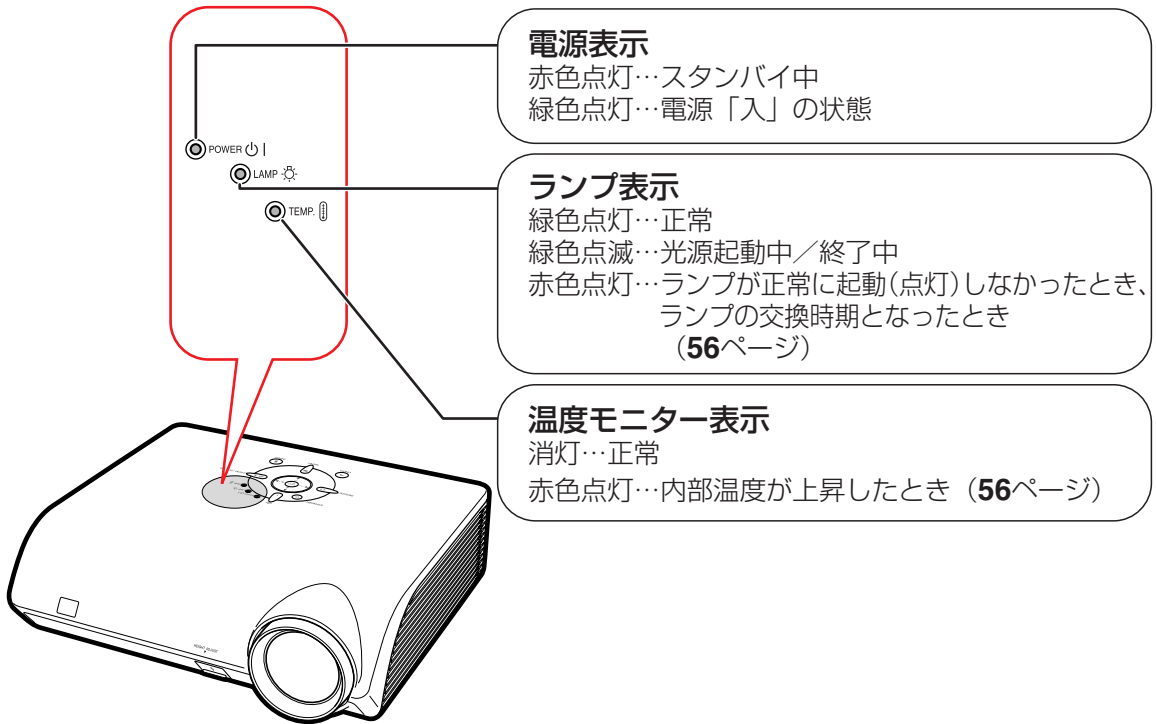
各部のなまえとはたらき

■の中の数字は参照ページを示します。

本体

天面操作部

つづく

各部のなまえとはたらき（つづき）

本体のランプ表示について

■の中の数字は参照ページを示します。

本体後面

後面端子 ………… 詳しくは21ページの「各入力端子とおもに接続する機器」をご覧ください。

INPUT2（入力2）端子 23
コンポーネント入力端子

INPUT1（入力1）端子 23
コンポーネント入力端子

デジタル入力タイプ切換スイッチ 24・25・27・28

INPUT5（入力5）／デジタル入力端子 24・25・27・28

INPUT4（入力4）端子 26
映像入力端子

INPUT3（入力3）端子 26
S映像入力端子

RS-232C端子 29
コンピュータを使ってプロジェクターを制御します。

PC VIDEO
INPUT 5 /DIGITAL
ANALOG RGB / DVI-DIGITAL RGB
Y PB(CB) PR(CR)
INPUT 1 COMPONENT
Y PB(CB) PR(CR)
INPUT 2 COMPONENT
INPUT 4 VIDEO
INPUT 3 S-VIDEO
RS-232C

排気孔 10・55
冷却ファンは内部温度を一定にしますが、その機能は自動制御されています。冷却ファンの音がプロジェクターの操作中に変化することがありますが、ファンの速さを変えているためで、故障ではありません。

吸気孔 10・55

リモコン受信部 15

盗難防止用コネクター 13
(Kensington Security Standard connector)

後部アジャスター 33
（プロジェクターの底部）

AC電源ソケット 30
付属の電源コードを接続します。

盗難防止用コネクターについて

• 市販の盗難防止用ケーブル（Kensington社製）などを接続することができます。

メモ

■盗難防止用コネクターは、Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。

つづく

各部のなまえとはたらき(つづき)

■の中の数字は参照ページを示します。

リモコン

STANDBY(スタンバイ)ボタン 30
電源を待機状態にします。

KEYSTONE(キーストーン補正)ボタン 34
投映角度により生じる台形歪みを
補正する画面にします。

ENTER(決定)ボタン 41

UNDO(戻す)ボタン 41
1つ前の操作状態や
前画面に戻します。

INPUT(入力)1ボタン 31

INPUT(入力)2ボタン 31

INPUT(入力)4ボタン 31

AUTO SYNC(自動同期調整)ボタン 48
コンピュータ接続時の同期を自動で
調整します。

RGB/COMP.(RGB/コンポーネント信号切換)ボタン 50
RGB信号とコンポーネント(色差)信号を
切り換えます。

IRIS(アイリス)ボタン 36
「高輝度モード」
「高コントラストモード」を
切り換えます。

30 ON(電源入)ボタン

40 MENU(メニュー)ボタン

32・40 カーソルボタン
(▲/▼/◀/▶ボタン)

32 ZOOM／FOCUS
(ズーム／フォーカス)ボタン
投映画像の拡大／縮小(ズーム)や、
ピント合わせをするときに押します。

31 INPUT(入力)3ボタン

31 DIGITAL INPUT
(デジタル入力)ボタン

31 INPUT(入力)5ボタン

36 RESIZE(画面サイズ切換)
ボタン
映像に合わせて画面サイズを
切り換えます。

36・46 PICTURE MODE
(映像モード)ボタン
「映像調整」メニューの「映像モード」で
登録した映像調整内容(メモリー)を
選択します。

メモ

• リモコンのボタンは、暗いところでも見やすい蓄光ラバーを採用しています。(蓄光ラバーの発光の強さは、時間の経過とともに減衰します。)

リモコンの使いかた

リモコンの使用範囲

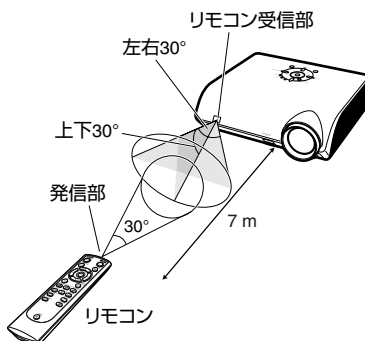
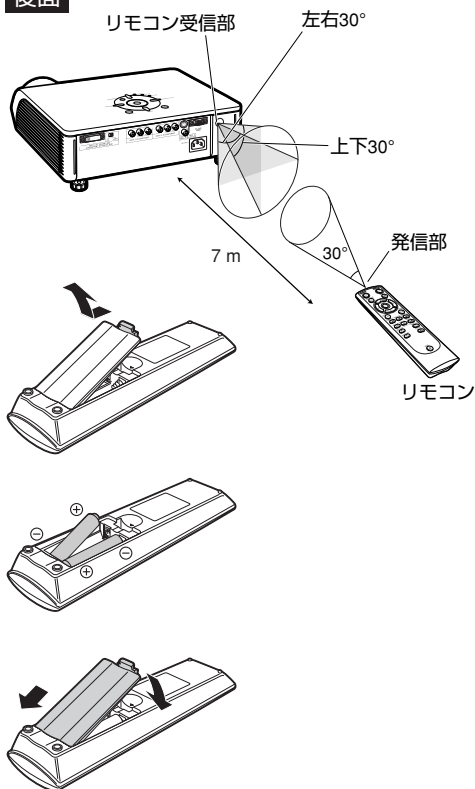
リモコンの使用範囲は図のとおりです。

メモ

- リモコンをスクリーンに反射させて、リモコン信号を受信することもできますが、信号が届く距離はスクリーンの材質によって異なります。

リモコン使用上のご注意

- 衝撃を与えたり、水にぬらしたり、温度の高いところには置かないでください。
- 蛍光灯の下では、リモコンの働きが悪くなる場合があります。そのようなときは、本体を蛍光灯から離してご使用ください。

前面

後面

乾電池の入れかた

1 カバーのつまみを押して、矢印の方向に開ける

2 付属の乾電池（単3形2本）を入れる

- プラス⊕とマイナス⊖を、表示のとおり正しく入れてください。

3 カバー下側の出っ張りをはめ込み、パチンとはまるまで下げる

乾電池は誤った使いかたをしますと液もれや破裂することがありますので、次の点について特にご注意ください。

⚠注意

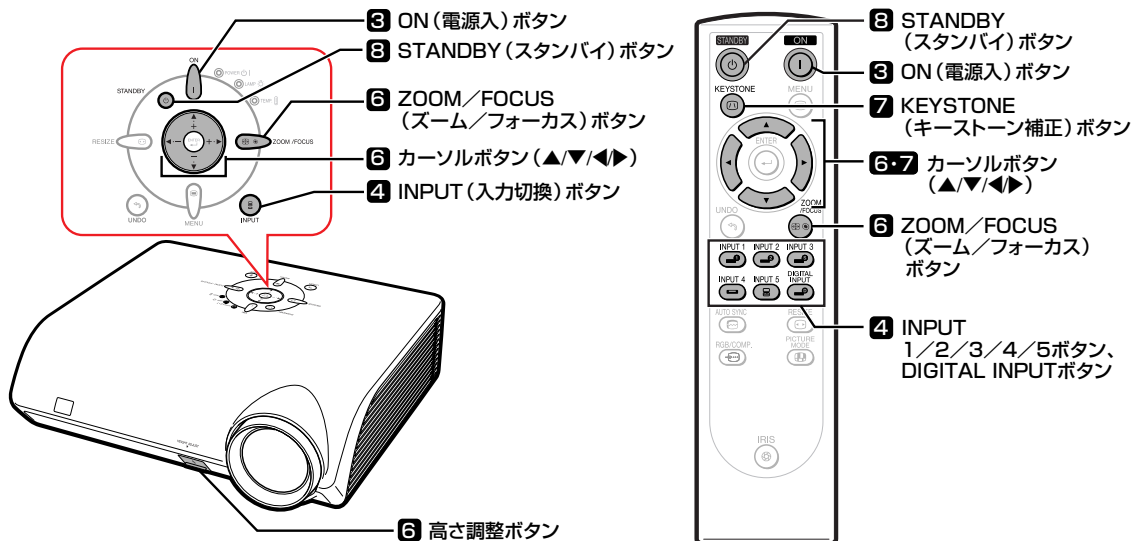
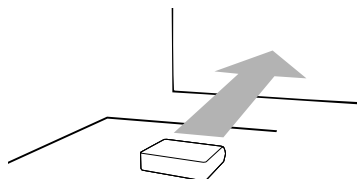
- 乾電池の⊕極と⊖極は、表示どおり正しく入れてください。
- 乾電池はショートさせたり、充電したり、分解したりしないでください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長時間使用しないときや乾電池を使い切ったときは、液がもれて故障の原因になる恐れもありますので、リモコンから乾電池を取り出しておいてください。また、もれた液に触れると肌が荒れることがありますので、布でふき取るなど十分注意してください。

- 付属の乾電池は、保管状態により短期間で消耗することがありますので、早めに新しい乾電池と交換してください。
- 不要となった乾電池を廃棄する場合は、各自治体の指示（条例）に従って処理してください。

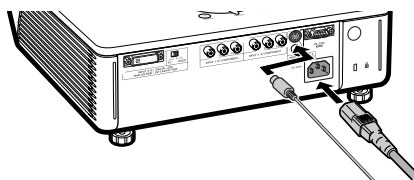
基本的な使いかた

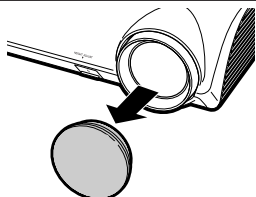
このページでは、本機の基本的な使いかたを説明しています。詳しくは各項目に記載されているページをご覧ください。

設置から投映まで

ここでは、本機とS映像端子付きビデオ機器の接続を例に説明します。

1. 本体を映したいスクリーンに向けて置く

➡18ページ

2. 電源コードおよびビデオ機器を接続する

ビデオ機器の音声は、オーディオ機器へ接続してください。

➡21〜30ページ

3. レンズキャップを外し、電源を入れる

➡30ページ

4. 入力モードを選ぶ

INPUT（入力切換）ボタンで「入力3」を選ぶ

本体の場合　リモコンの場合　▼画面表示

入力 3

- 本体のINPUTボタンを押すと、入力1→入力2→入力3→入力4→入力5→デジタルの順番で切り換わります。
- リモコンで入力モードを切り換えるときは、INPUT 1/INPUT 2/INPUT 3/INPUT 4/INPUT 5/DIGITAL INPUTを押して切り換えます。

➡31ページ

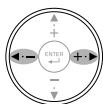
5. ビデオ機器の電源を入れ、再生する

6. ピント、サイズ、投映角度を調整する

1. ピントを合わせる

本体の場合

①ZOOM / FOCUSを押す

②◀または▶を押してフォーカス調整

リモコンの場合

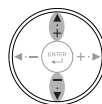
①ZOOM/FOCUSを押す

②◀または▶を押してフォーカス調整

2. ズームを調整して、投映映像の大きさを調整する

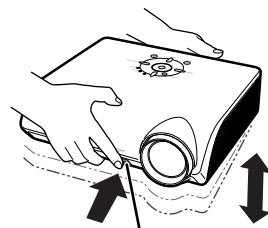
本体の場合

①ZOOM / FOCUSを押す

②▲または▼を押してズーム調整

リモコンの場合

①ZOOM/FOCUSを押す

②▲または▼を押してズーム調整

3. アジャスターで投映角度を調整する

➡32・33ページ

7. 台形歪みを調整する

キーストーン補正で台形の歪みを補正する

リモコン

KEYSTONE

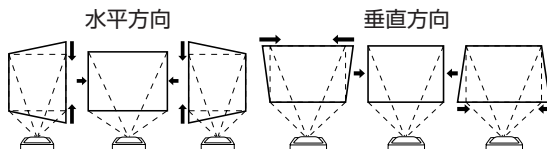
Hキーストーン（水平方向の補正）
Vキーストーン（垂直方向の補正）
を選ぶ

調整する

リモコン

KEYSTONE

水平方向

垂直方向

➡34・35ページ

8. 電源を切るときは

STANDBY（スタンバイ）ボタンを押し、確認画面が表示されている間にもう一度、同じボタンを押す

本体の場合　リモコンの場合　▼画面表示

STANDBY

STANDBY

プロジェクタを待機状態にしますか？
決定：もう一度押す　中止：少し待つ

- 冷却ファンが停止してから、電源プラグをコンセントから抜いてください。

➡30ページ

本機を設置する

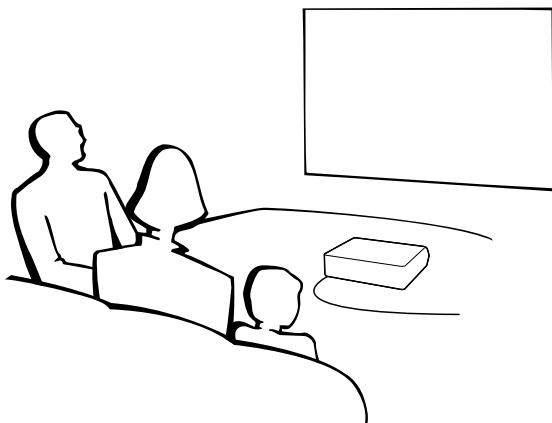
本機の設置のしかた

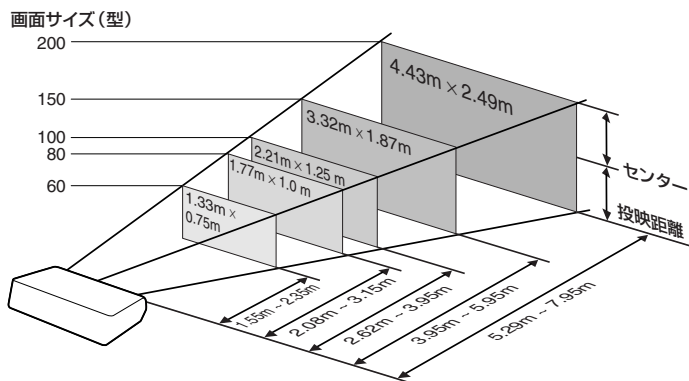
プロジェクターを水平な状態にして、スクリーンに対して垂直に設置してください。
この状態で最良の映像が得られます。

メモ

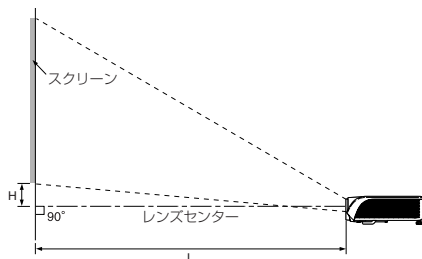
- プロジェクターのレンズがスクリーンの中心（水平方向）にくるように設置してください。レンズの中心を通る水平ラインが、スクリーンに対して垂直になっていないと、映像が歪んで見にくくなります。
- スクリーンを直射日光や照明の光のあたる場所に設置しないでください。スクリーンに直接あたる光で画面が白っぽくなり、見にくくなります。明るい光が入る部屋では、カーテンを引いて、照明を暗くしてください。

基本的な設置（前面からの投映）

■投映したい画面サイズに合わせて、スクリーンから必要な距離をとってプロジェクターを設置してください。（**19**ページ）

投映画像の大きさと設置距離のめやす

詳細については、**19**ページの「画面サイズと投映距離」をご覧ください。
例:　16:9ワイドスクリーン使用時

画面サイズと投映距離

本機のレンズからスクリーンまでの距離により投映画面サイズが異なります。
下表を参考に、スクリーンに映像が最適な大きさで投映されるように設置してください。
値は設置のめやすにしてください。

横から見たとき

16：9 ワイドスクリーン使用時（16:9映像を16:9ワイドスクリーンに投映した場合）

画面サイズ			投映距離（L）		画面下端からレンズセンターまでの距離（H）
対角（型）	幅（m）	高さ（m）	L1:最短	L2:最長	
200	4.43	2.49	5.29 m	7.95 m	8.3 cm
150	3.32	1.87	3.95 m	5.95 m	6.2 cm
100	2.21	1.25	2.62 m	3.95 m	4.2 cm
80	1.77	1.00	2.08 m	3.15 m	3.3 cm
70	1.55	0.87	1.82 m	2.75 m	2.9 cm
60	1.33	0.75	1.55 m	2.35 m	2.5 cm
40	0.89	0.50	1.01 m	1.55 m	1.7 cm

x ：画面サイズ（型）
L ：投映距離（m）
L1：最短投映距離
L2：最長投映距離
H ：画面下端からレンズセンターまでの距離（cm）

画面サイズと投映距離の近似式
$L1=0.02671x-0.05334$(m)
$L2=0.03999x-0.05215$(m)
$H=0.04151x$(cm)

4：3 標準スクリーン使用時（16:9映像を横幅いっぱいに4:3標準スクリーンに投映した場合）

画面サイズ			投映距離（L）		画面下端からレンズセンターまでの距離（H）
対角（型）	幅（m）	高さ（m）	L1:最短	L2:最長	
200	4.06	3.05	4.85 m	7.29 m	7.62 cm
150	3.05	2.29	3.62 m	5.45 m	5.72 cm
100	2.03	1.52	2.40 m	3.62 m	3.81 cm
80	1.63	1.22	1.91 m	2.88 m	3.05 cm
70	1.42	1.07	1.66 m	2.52 m	2.67 cm
60	1.22	0.91	1.42 m	2.15 m	2.29 cm
40	0.81	0.61	0.93 m	1.42 m	1.52 cm

x ：画面サイズ（型）
L ：投映距離（m）
L1：最短投映距離
L2：最長投映距離
H ：画面下端からレンズセンターまでの距離（cm）

画面サイズと投映距離の近似式
$L1=0.02452x-0.05334$(m)
$L2=0.03671x-0.05215$(m)
$H=0.03810x$(cm)

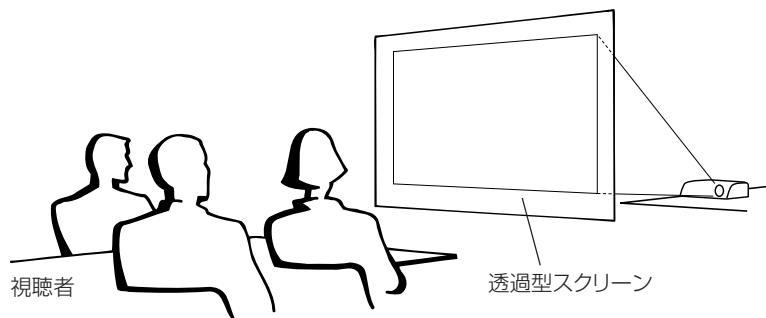
- 上記の近似式には±3%の誤差があります。

本機を設置する(つづき)

反転映像を投映するとき

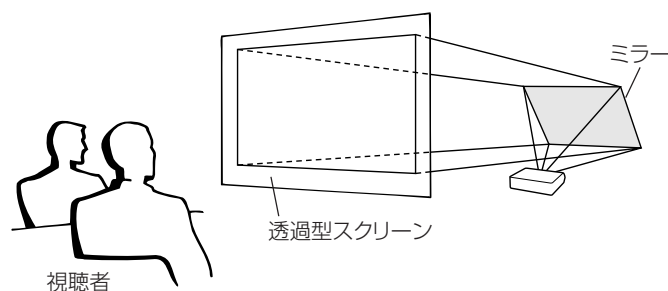
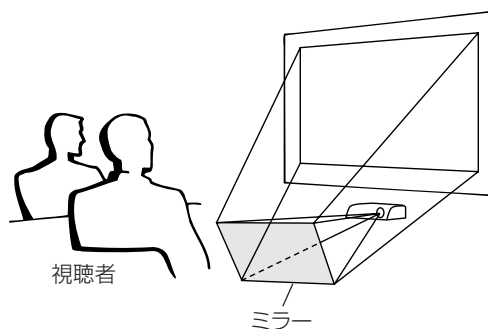
スクリーン背後からの投映

■ 透過型スクリーンをプロジェクターと視聴者の間に設置してください。

■「投映方式」メニューで「リア」に設定してください。画面の左右が反転します。(**54**ページ)

ミラーを使った投映

■ レンズの正面にミラー(表面鏡)を設置してください。

■ 図のように透過型スクリーンを視聴者とミラーの間に設置し投映するときは、「投映方式」メニューで「フロント」に設定してください。(**54**ページ)

■ 視聴者側にミラーを置くときは、「投映方式」メニューで「リア」に設定してください。(**54**ページ)

お知らせ

• ミラーを使用する場合は、プロジェクターとミラーの位置に注意して、視聴者の目に光が入らないようにしてください。

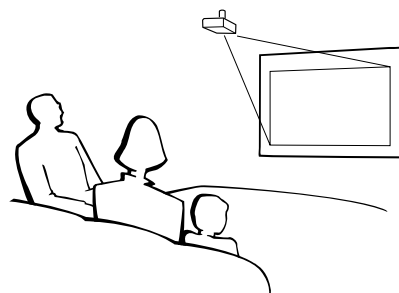
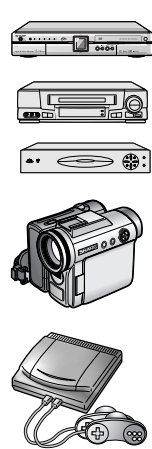
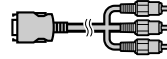
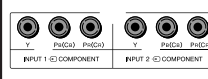
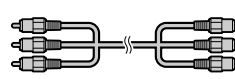
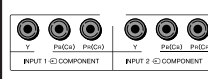
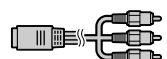
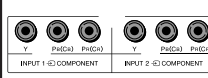
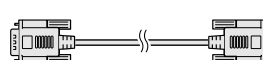
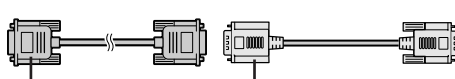
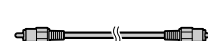
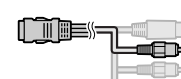
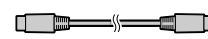
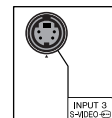
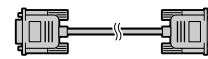
天井取り付けによる投映(天吊り)

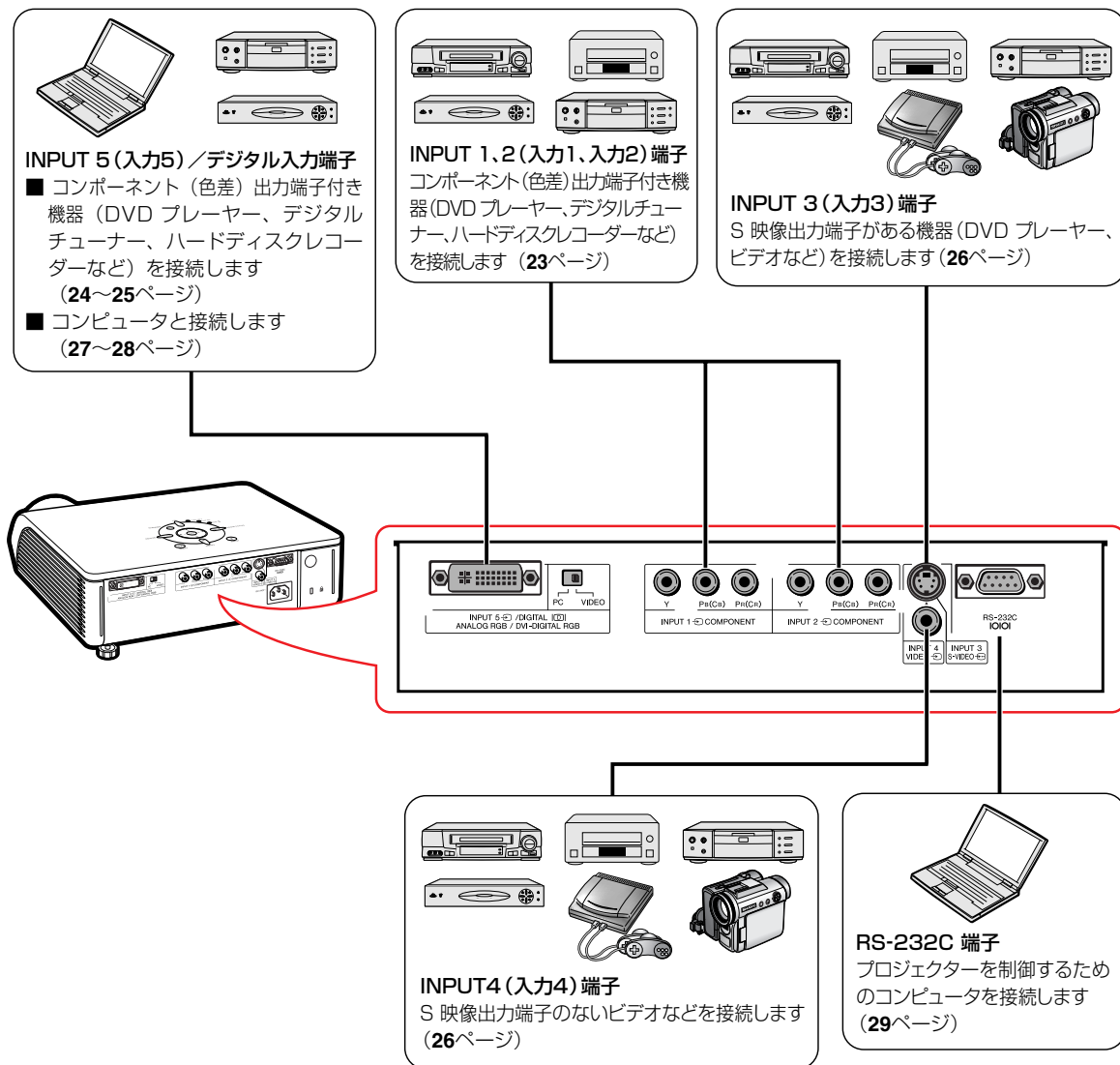
■ 天井に取り付ける場合は、別売の取り付けユニットおよび天吊り用取り付けアダプター「AN-60KT」が必要です。(**69**ページ)

また、取り付けの際は、必ずお買いあげの販売店にご相談ください。

別売の天吊り用取り付けアダプター「AN-60KT」の取り付けは、天吊り用取り付けアダプターに付属されている説明書をご覧ください。

■ プロジェクターを天井に設置するときは、**19**ページの画面下端からレンズセンターまでの距離(H)に合わせて設置位置を決めてください。

■「投映方式」メニューで「天吊り」に設定してください。画面の上下が反転します。(**54**ページ)

接続する

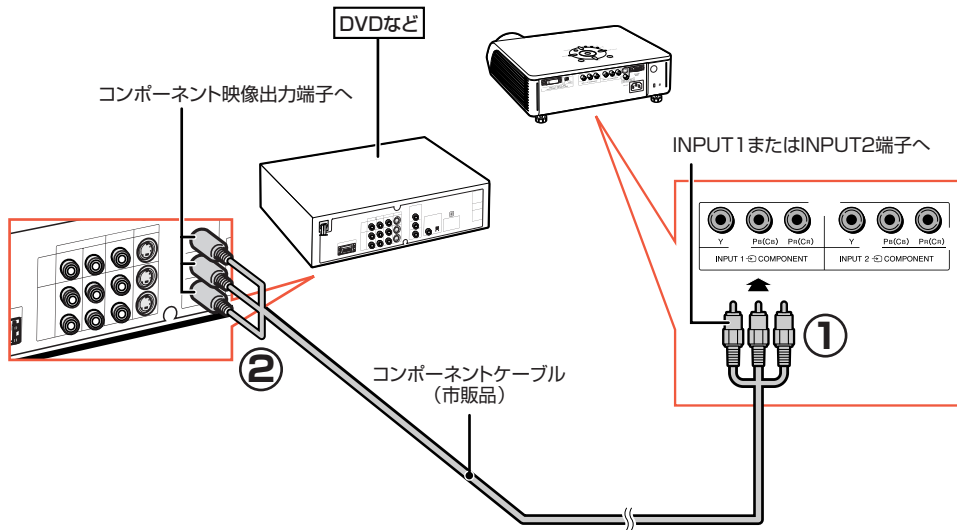
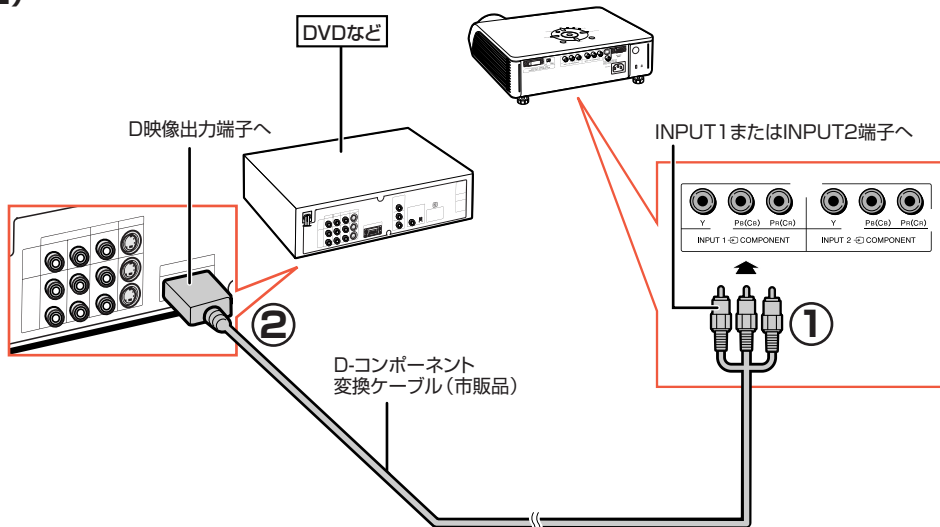
各入力端子とおもに接続する機器

接続する機器と使用するケーブル例

• 使用しているケーブル名称は一例です。接続する機器によっては機器専用のケーブルを使用したり、変換プラグやアダプターが必要となる場合があります。詳しくは本機に接続する機器の取扱説明書で確認してください。

接続機器	接続機器側端子	変換ケーブル/接続ケーブル	本体側端子
AV機器	D映像出力端子	D-コンポーネント変換ケーブル（市販品）	INPUT1、2
	コンポーネント映像出力端子	コンポーネントケーブル（市販品）	INPUT1、2
	専用ケーブルを使う端子の場合	接続する機器に付属の専用ケーブル	INPUT1、2
	DVI出力端子	DVIデジタルケーブル（別売品:AN-C3DV）	INPUT5/DIGITAL
コンピュータ	RGB出力端子	RGBケーブル（市販品）と変換アダプター（別売品） RGBケーブル（市販品） DVI/15ピンミニD-sub変換アダプター（別売品:AN-A1DV）	INPUT5/DIGITAL
	映像出力端子	映像ケーブル（市販品）	INPUT4
	専用ケーブルを使う端子の場合	接続する機器に付属の専用ケーブル	INPUT4
	S映像出力端子	S映像ケーブル（市販品）	INPUT3
	専用ケーブルを使う端子の場合	接続する機器に付属の専用ケーブル	INPUT3
コンピュータ	RS-232C端子	RS-232Cケーブル（市販品）	RS-232C

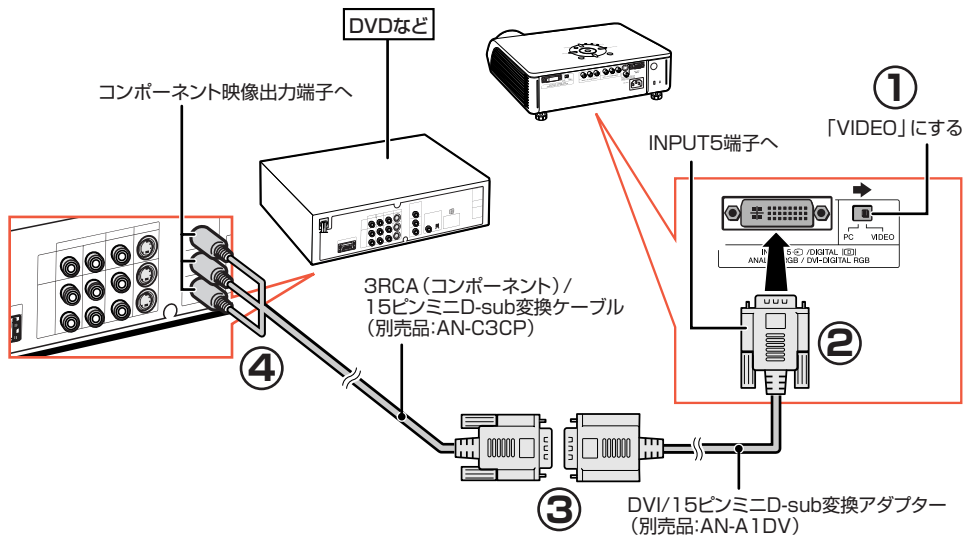
ビデオ機器を接続する

接続を始める前に、必ずプロジェクターや接続する機器の電源を切ってください。すべての接続が終わった後で、プロジェクターおよび周辺機器の電源を入れます。
接続の際は、接続する機器の取扱説明書をよくお読みください。

コンポーネント映像出力端子付き機器と本機のコンポーネント端子を接続する場合（INPUT 1またはINPUT2）

D映像出力端子付き機器と本機のコンポーネント端子を接続する場合（INPUT 1または INPUT2）

ビデオ機器を接続する（つづき）

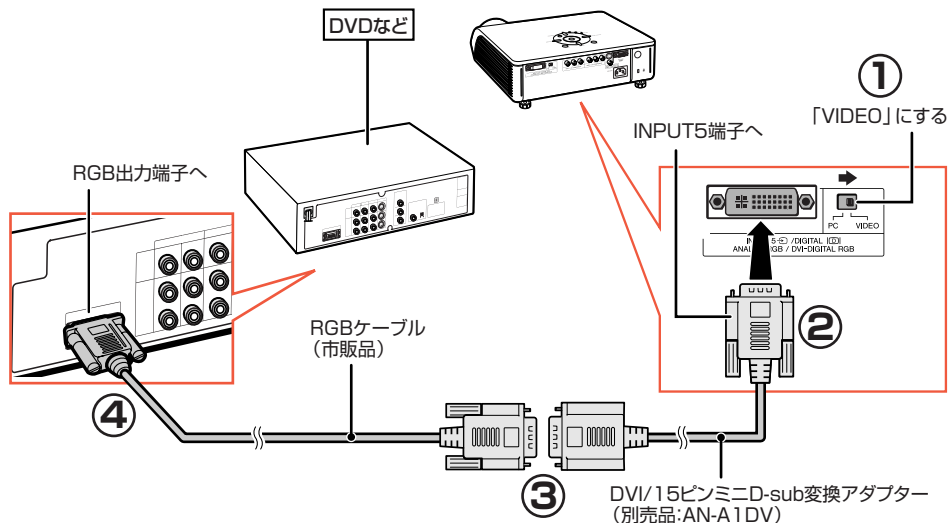
コンポーネント映像出力端子付き機器と本機のDVI端子を接続する場合（INPUT5）

接続する前に、デジタル入力タイプ切換スイッチを「VIDEO」にしてください。

メモ

この接続をしたときは、「オプション」メニューの「入力信号タイプ」を「色差入力」に設定するか、リモコンの を押して「色差入力」を選択してください。（**50**ページ）

RGB出力端子付き機器と接続する場合（INPUT5）

接続する前に、デジタル入力タイプ切換スイッチを「VIDEO」にしてください。

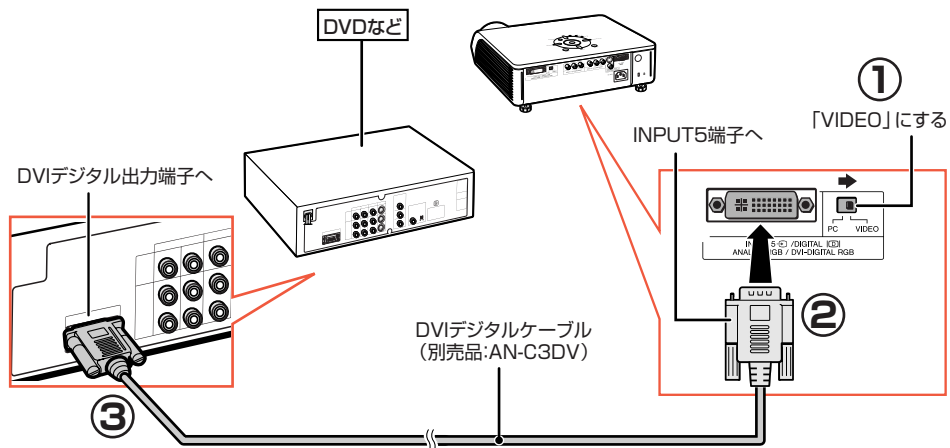
メモ

この接続をしたときは、「オプション」メニューの「入力信号タイプ」を「ＲＧＢ」に設定するか、リモコンの を押して「RGB」を選択してください。（**50**ページ）

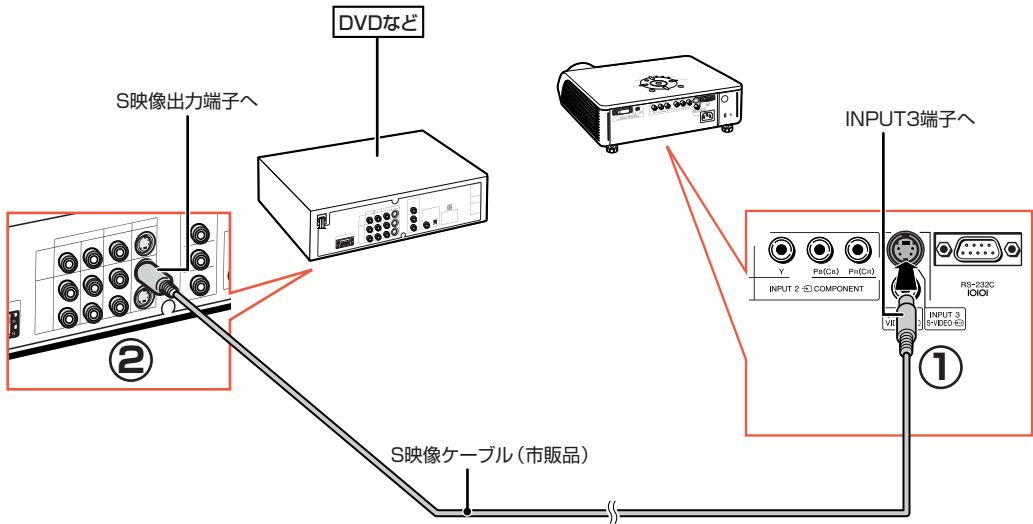
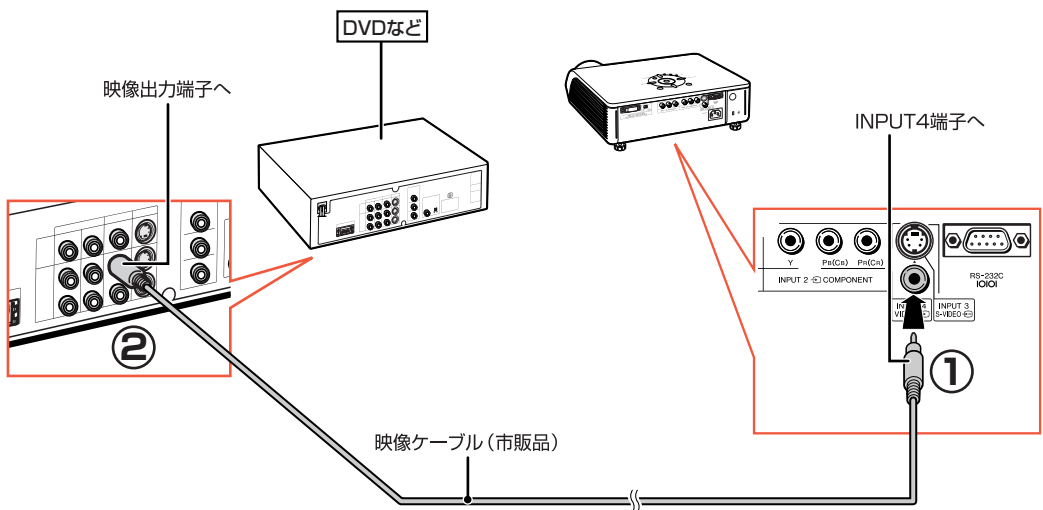
DVI出力端子付き機器と接続する場合（DIGITAL INPUT）

接続する前に、デジタル入力タイプ切換スイッチを「VIDEO」にしてください。

この接続をしたときは、入力モードをデジタル入力に切り換えてください。（**31**ページ）

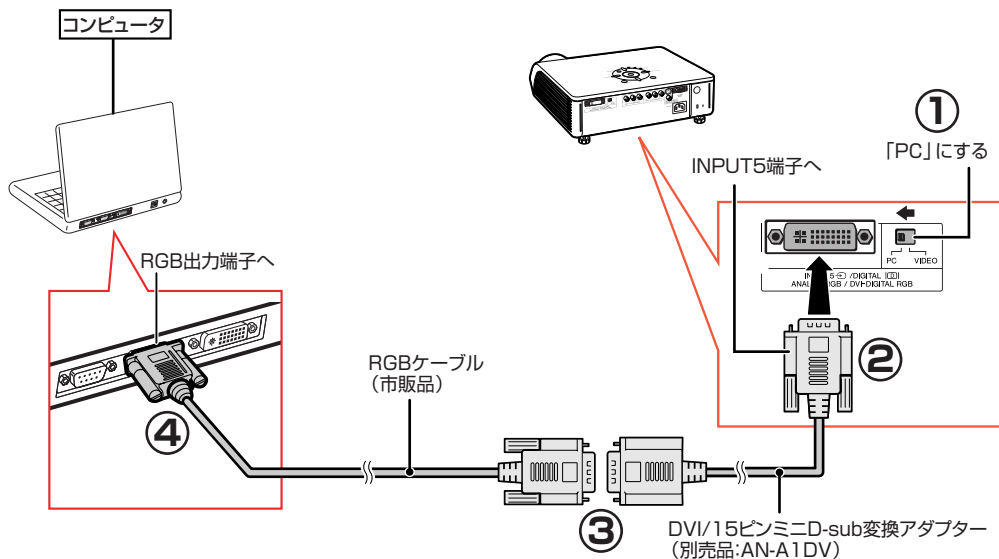
接続する

つづく

ビデオ機器を接続する（つづき）

S映像出力端子付き機器と接続する場合（INPUT3）

映像出力端子付き機器と接続する場合（INPUT4）

コンピュータを接続する

コンピュータと接続する場合、コンピュータの電源は接続後、一番最後に入れてください。

コンピュータを接続する場合（INPUT5）

接続する前に、デジタル入力タイプ切換スイッチを「PC」にしてください。

メモ

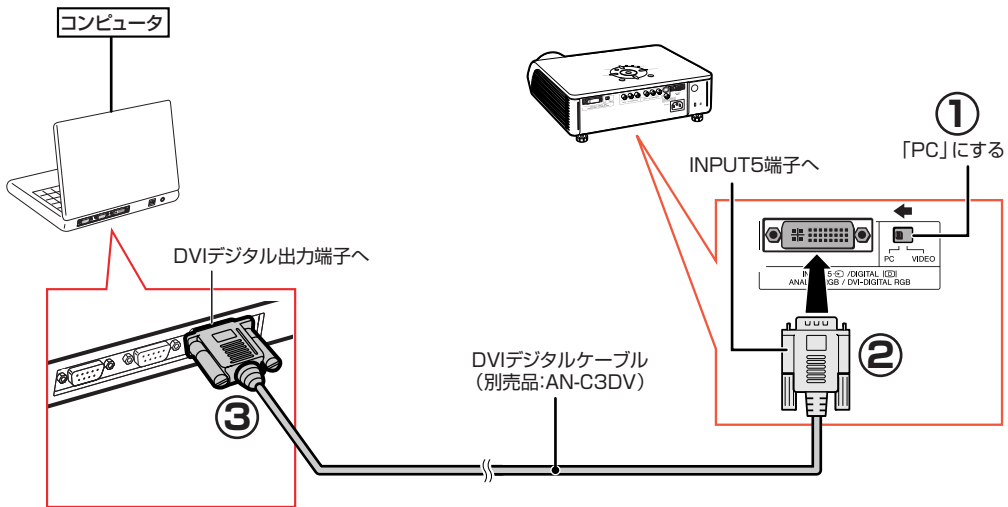
- 対応しているコンピュータの表示モードについては、**63**ページ「RGB入力信号（推奨信号）一覧表」をご覧ください。一覧表に記載のない表示モードで使用すると、本機の機能の一部が使用できない場合があります。
- この接続をしたときは、「オプション」メニューの「入力信号タイプ」を「RGB」に設定するか、リモコンのRGB/COMP.を押して「RGB」を選択してください。（**50**ページ）
- Macintoshと接続する場合、コンピュータケーブルにアダプターが必要になる場合があります。販売店、またはもよりのシャープお客様相談センター（**66**ページ）へお問い合わせください。
- お使いのコンピュータによっては、出力信号を外部出力に切り換えないと映像が表示されない場合があります。外部出力への切り換え方法についてはコンピュータの取扱説明書をご覧ください。

つづく

コンピュータを接続する(つづき)

コンピュータと接続する場合、コンピュータの電源は接続後、一番最後に入れてください。

デジタルRGB出力端子付きコンピュータと接続する場合(DIGITAL INPUT)

接続する前に、デジタル入力タイプ切換スイッチを「PC」にしてください。

メモ

- この接続をしたときは、入力モードをデジタル入力に切り換えてください。(**31**ページ参照)
- デジタル入力タイプ切換スイッチを切り換えたり接続を始める前に、必ずプロジェクターの電源コードをコンセントから抜き、接続するコンピュータの電源を切ってください。すべての接続とスイッチ切換が終わったあとで、プロジェクターおよびコンピュータの電源を入れます。

「プラグ&プレイ」機能

■ 本機はVESA-standard DDC 1/DDC 2Bに準拠しています。本機とVESA DDC準拠のコンピュータでは、設定内容を送受信(通信)しますので、早く簡単にセットアップすることができます。

■ 「プラグ&プレイ」機能を使用する前には、**必ずプロジェクターの電源を先に入れてから、接続したコンピュータの電源を入れてください。**

メモ

- 本機のDDCプラグ&プレイ機能はVESA DDC互換コンピュータを接続した場合のみ操作できます。

プロジェクターをコンピュータで制御する

プロジェクターのRS-232C端子とコンピュータのシリアル（RS-232C）ポートを接続すると、コンピュータからプロジェクターを操作することができます。

コンピュータとRS-232Cケーブルを使って接続するとき

メモ

- RS-232C端子からの制御は、お使いのコンピュータポートが正しく設定されていないと機能しない場合があります。詳しくはお使いのコンピュータの取扱説明書をご覧ください。
- **RS-232Cの仕様とコマンドについては、62ページの「RS-232C仕様とコマンドの設定」をご覧ください。**

お知らせ

- コンピュータ側のシリアル（RS-232C）ポート以外には接続しないでください。コンピュータまたは、プロジェクターが破損する恐れがあります。
- コンピュータの電源が入っているときにRS-232Cケーブルを抜き差ししないでください。コンピュータの故障の原因になることがあります。

電源の入れかた/切りかた

電源コードを接続する

AC電源ソケットに電源コードを接続する

- 電源コードをコンセントに差し込む前に、必ずアースコードを取り付けてください。
- アースコードを取り外すときは、必ずプラグをコンセントから抜いた後、行ってください。

電源を入れるとき

操作を始める前に、外部機器との接続を済ませておいてください。（21～29ページ）

レンズキャップを外し、本体の ON または ON リモコンの を押す

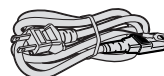
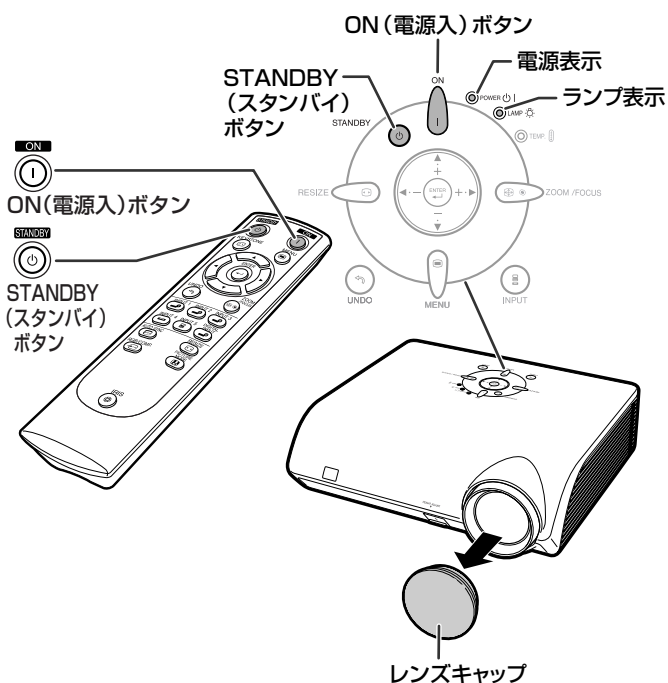
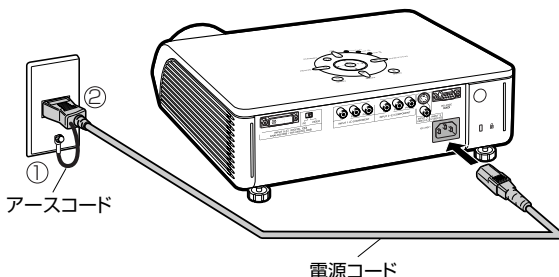
- 電源表示が緑色に点灯します。
- ランプが点灯するとランプ表示が緑色点灯します。ランプ表示が緑色点灯してから、プロジェクターの操作を始めてください。

メモ

- ランプ表示はランプの状態をお知らせします。
  - **緑色点灯**：ランプ点灯中
  - **緑色点滅**：ランプ起動中/ランプ消灯処理中
  - **赤色点灯**：ランプ交換
- 電源を入れ、ランプが起動してから約1分間は、まれに投映画像がちらつくことがあります。これはランプ制御回路が出力を安定させるための動作であり、故障ではありません。
- プロジェクターを待機状態にした直後に再び電源を入れると、ランプ（光源）が起動するまで多少時間がかかる場合があります。

電源を切る（待機状態にする）とき

1 **本体の STANDBY またはリモコンの STANDBY を押し、確認画面が表示されている間にもう一度、同じボタンを押す**

2 **冷却ファンが停止してから、電源プラグをコンセントから抜く**

▼画面表示

プロジェクタを待機状態にしますか？
決定：もう一度押す　中止：少し待つ

終了中です。しばらくお待ちください。

お知らせ

- 投映中および冷却ファンの動作中（待機状態にした後、約９０秒間）は、電源プラグを抜かないでください。冷却ファンも同時に停止するため、温度上昇により故障の原因となります。

投映のしかた

入力を切り換える

接続した機器にあわせて、入力モードを選択します。

リモコンのINPUT 1、INPUT 2、INPUT 3、INPUT 4、INPUT 5またはDIGITAL INPUTを押し、入力モードを選ぶ

- 本体のINPUTを押すと、

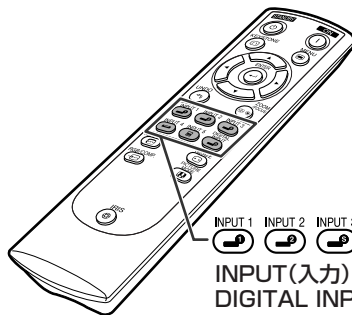
入力1→入力2→入力3→入力4→入力5→デジタル

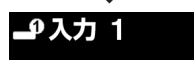
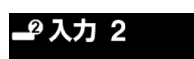
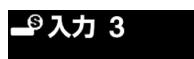
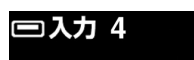
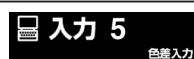
の順番で切り換わります。

メモ

- 信号が入力されていないと、「入力無信号」と画面表示されます。プロジェクターで認識できない信号を受けとると、「判別不能」と画面表示されます。
- 「オプション」メニューの「OSD表示」が「 」（切）に設定されていると、入力モードは表示されません。（**49**ページ）

入力モードについて

入力1（色差）	入力1端子に接続した機器を投映したいとき
入力2（色差）	入力2端子に接続した機器を投映したいとき
入力3（Sビデオ）	入力3端子に接続した機器を投映したいとき
入力4（ビデオ）	入力4端子に接続した機器を投映したいとき
入力5（色差/RGB）	入力5端子に接続した機器を投映したいとき
デジタル	入力5端子とDVI出力端子またはRGBデジタル出力端子付機器を接続して投映したいとき

INPUT（入力）1/2/3/4/5ボタン、DIGITAL INPUT（デジタル入力）ボタン

▼入力モード画面表示（例）

使ってみる

つづく

投映のしかた（つづき）

フォーカス（ピント）を調整する

1 **を押す**

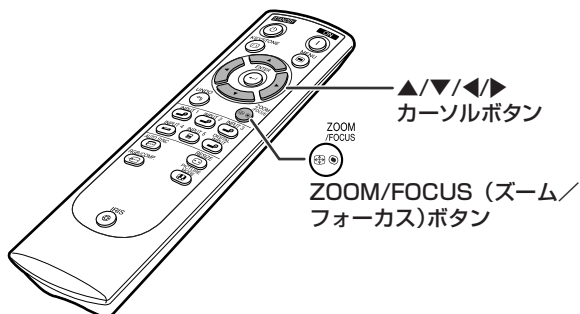
• ズーム/フォーカス調整画面になります。

2 **◀または▶を押し、フォーカスを調整する**

 メモ

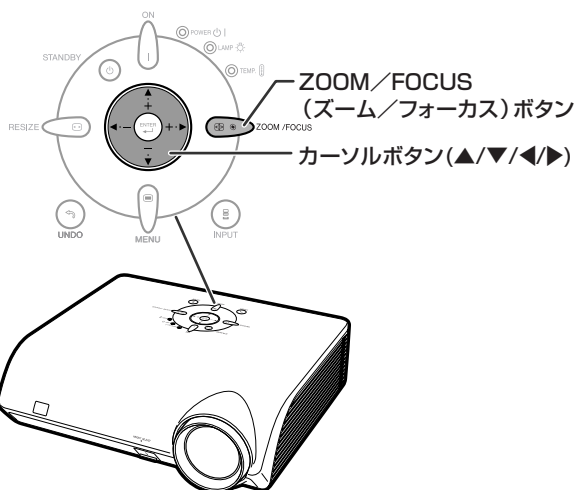
• 本体のと◀、▶でもフォーカスを調整することができます。

投映画像の大きさを調整する

1 **を押す**

• ズーム/フォーカス調整画面になります。

2 **▲または▼を押し、ズームを調整する**

 メモ

• 本体のと▲、▼でもズームを調整することができます。

アジャスターを使って角度を調整する

プロジェクターよりスクリーンが高い位置にあるときや、スクリーンに傾斜があるとき、または設置面が少し傾いているときなど、アジャスターを使ってプロジェクターの傾きを調整することができます。
プロジェクターは、できるだけスクリーンと直角になるように設置してください。

1 高さ調整ボタンを押したまま、プロジェクターを持ち上げて高さ調整する

- 設置位置から約12 度まで6段階の角度調整ができます。
- プロジェクターを押し下げるとき、設置面がすべりにくいとアジャスターが動きにくいことがあります。その場合はプロジェクターを少し後方にずらしながら、押し下げてください。

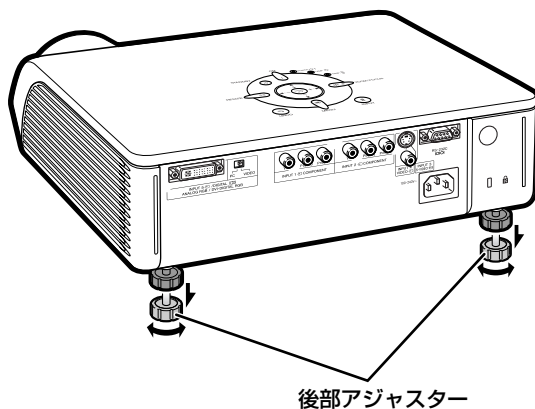
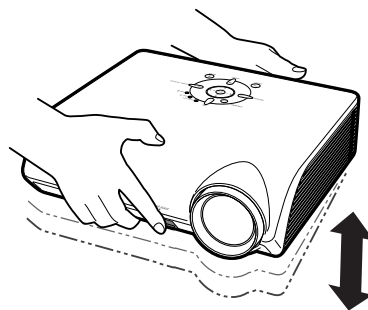
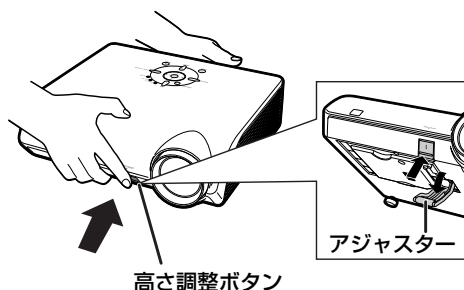
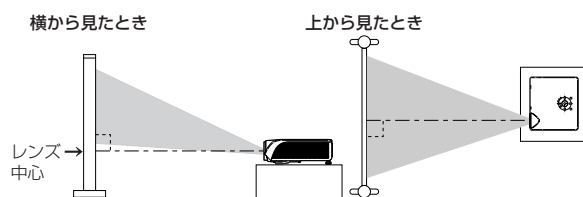
2 お好みの高さになったところで、高さ調整ボタンから手を離す

3 後部アジャスターを回して、高さや傾きを微調整する

メモ

- 投映角度を調整すると、画面が台形に歪みます。その場合は、「画面の台形歪みを補正する（キーストーン補正）」（**34**ページ）をご覧ください。

お知らせ

- アジャスターが出ている状態で高さ調整ボタンを押すときは、プロジェクターをしっかりささえて高さを調整してください。
- プロジェクターを上下させるとき、レンズを持たないでください。
- プロジェクターを下げる際には、アジャスターとプロジェクターのすき間に指を挟まないようにご注意ください。

画面の台形歪みを補正する（キーストーン補正）

キーストーン（画面の台形歪み）補正が行えます。

※キーストーン補正とは
- 映像をスクリーンに対して上下左右から角度をつけて投映すると、映像が台形に歪みます。この台形の歪みを補正する機能がキーストーン補正です。

1 リモコンの KEYSTONE を押す

- キーストーン補正画面になります。

▼画面表示（キーストーン補正画面）

2 ▲または▼を押し、補正する方向を選択する

方向	説明
Hキーストーン	水平方向の台形補正を行います。
Vキーストーン	垂直方向の台形補正を行います。
リセット	工場出荷時の設定に戻します。

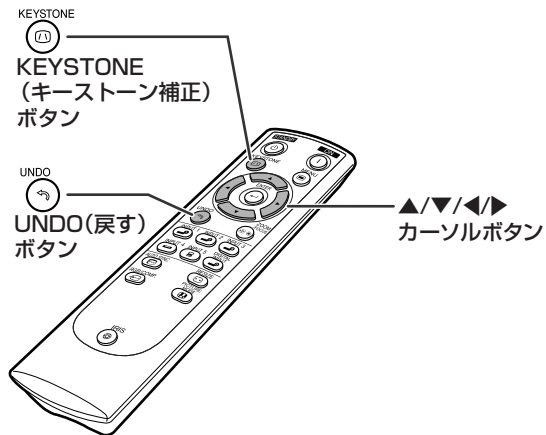
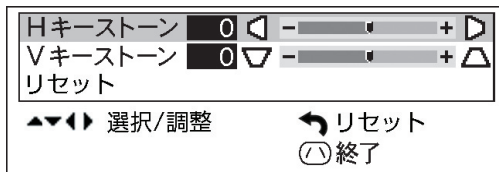
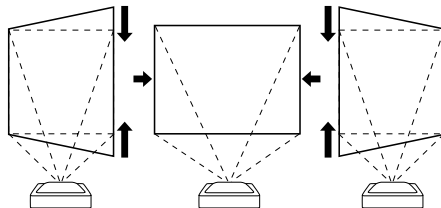
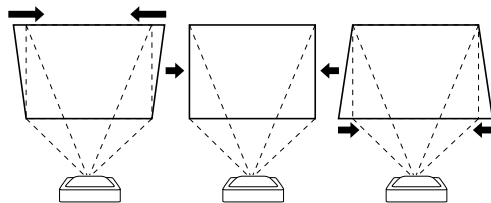
水平方向の台形補正

垂直方向の台形補正

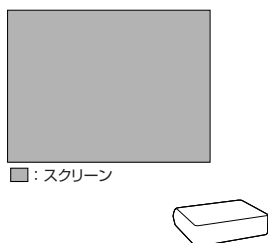
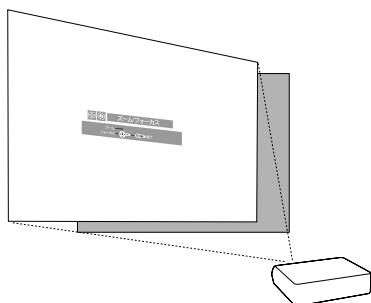
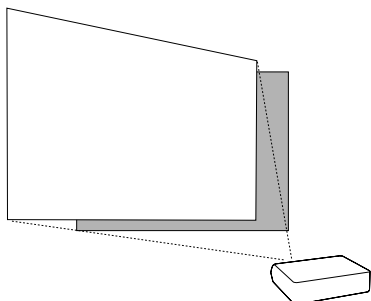
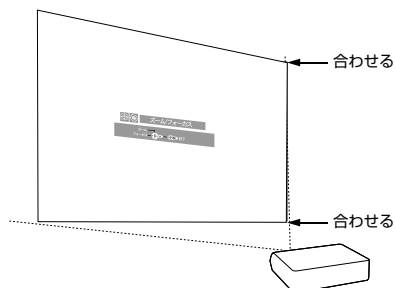
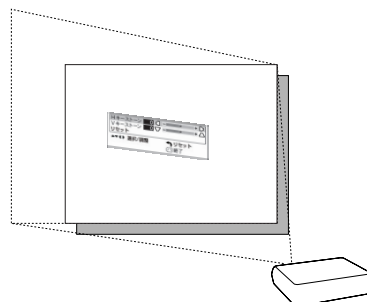
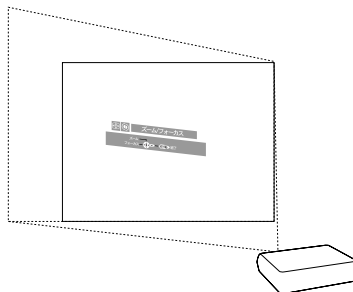
3 ◀または▶を押し、▮を動かして調整する

- キーストーン補正をすると、投映画像の直線や映像の端がギザギザになっているように見える場合があります。
- 水平方向と垂直方向の両方を補正したときは、それぞれの補正可動範囲が狭くなります。
  （例）Hキーストーンを最大にしたときは、Vキーストーンは可変幅が微少になります。
- 画面サイズが「ワイド」のときは、キーストーン補正は働きません。（**37**ページ）

4 リモコンの KEYSTONE を押す

- キーストーン補正画面が解除されます。

メモ
- キーストーン補正をしたときの設置可能範囲は入力信号によって変わります。
- メニュー等の操作表示にはキーストーン補正が働きません。
- キーストーン補正を行うと画像の解像度が若干落ちます。
- リモコンの UNDO を押しても、キーストーン補正を工場出荷時の設定に戻すことができます。

キーストーン補正を使って投映する場合の設置方法

19ページの「画面サイズと投映距離」をご覧になり、プロジェクターをスクリーンに対して投映可能な範囲におきます。

1 **映像を投映します。このとき、フォーカスを合わせておきます。（32ページ）**

2 **プロジェクターを動かしたり、アジャスターを使って投映角度を変え、スクリーンに投映します。（33ページ）**

3 **ズーム機能（32ページ）やアジャスターなどを使って、プロジェクターに近い方のスクリーンの端と投映している映像の端を合わせます。**

4 **スクリーンと映像のサイズが合うようにキーストーン機能で調整します。（34ページ）**

5 **ズーム機能やアジャスターなどを使ってスクリーンと映像を合わせます。**

6 **最後に画面の中央にフォーカスが合うよう調整します。（32ページ）**

メモ

- Hキーストーンとｖキーストーンを同時に調整すると映像の縦横比が少しずれます。
- **キーストーン補正をしても、補正しきれない場合は、本機の設置位置を変えるなどしてください。**

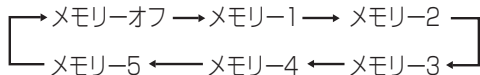
つづく

映像モードを選択する

「映像調整」メニューの「映像モード」で登録した映像調整内容（メモリー）を選択することができます。

リモコンのPICTURE MODEを押す

• 表示が出ている間に押すと

メモリーオフ → メモリー1 → メモリー2 → メモリー3 → メモリー4 → メモリー5 → メモリーオフ

の順番で切り換わります。

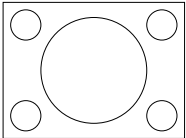
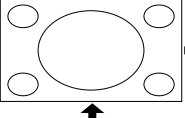
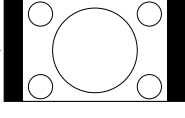
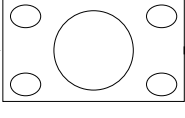
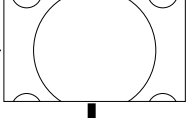
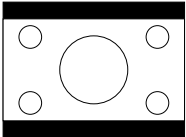
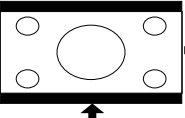
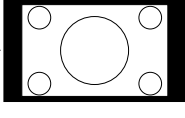
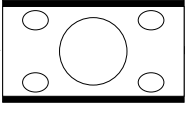
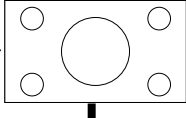
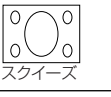
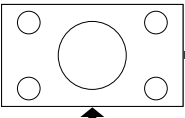
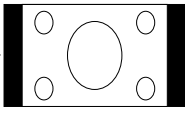
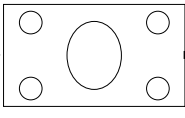
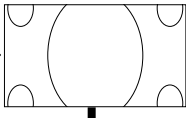
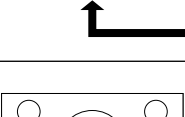
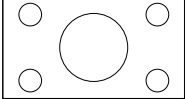
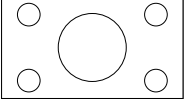
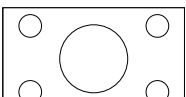
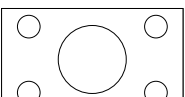
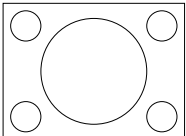
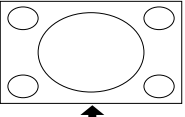
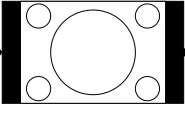
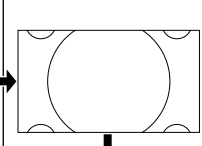
• 映像モードについて、詳しくは**46**ページをご覧ください。

高輝度モード／高コントラストモード切換機能を使用する

映像の明るさやコントラストの強さを切り換えることができます。

リモコンのIRISを押す

• 表示が出ている間に押すと「高輝度モード」↔「高コントラストモード」が切り換わります。

• 高輝度モード/高コントラストモードについて、詳しくは**46**ページをご覧ください。

画面サイズを切り換える

入力された映像信号にあわせて、お好みにより画面サイズを「スクイーズ」「標準」「ワイド」「ズーム」の中から選択することができます。

リモコンのRESIZEを押す

• RESIZEを押すごとに、画面サイズは次のページのように変わります。
• 初期の状態に戻すには、RESIZEを押して「画面サイズ」が画面に表示されているときにUNDOを押してください。
• 本体のRESIZEを押して、画面サイズを切り換えることもできます。

メモ

- キーストーン補正（**34**ページ）を行っているときは、「ワイド」は選択できません。
  また「ワイド」に設定されているときは、キーストーン補正は働きません。
- 540P、750P、または1125Iの映像信号を入力したときは、スクイーズに固定されます。
- コンピュータからの信号（VGA、SVGAまたはXGA）入力時は、「ワイド」は選べません。

本機に入力される信号と表示について

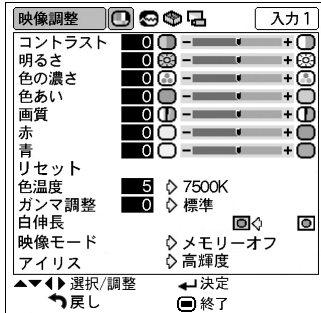
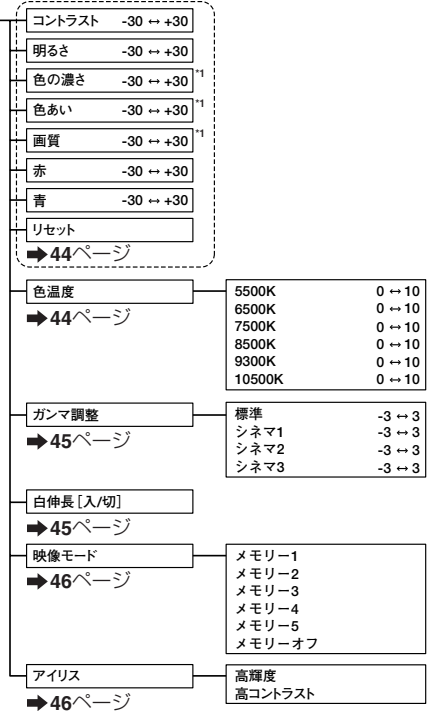
- DVD やデジタルビデオなどAV機器からの入力信号を、INPUTボタンを押したときに表示します。表示される信号は、有効走査線数と総走査線数を表示します。

入力信号	本機の表示（有効走査線数／総走査線数）
525I	480I/525I
525P	480P/525P
750P	720P/750P
1125I	1080I/1125I

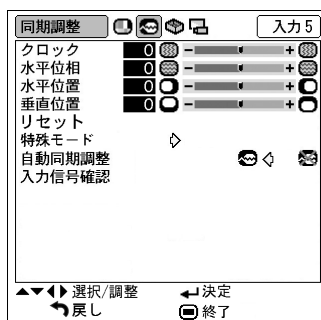
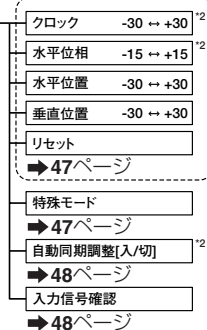
メニュー内容一覧

次の項目が本機で設定できます。

「映像調整」メニュー

入力1の画面例

入力5（RGB）の画面例

*1：入力1、2、3、4か入力5にコンポーネント（色差信号）が入力されているときに設定できる項目です。

「同期調整」メニュー

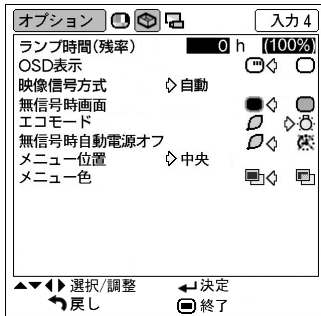
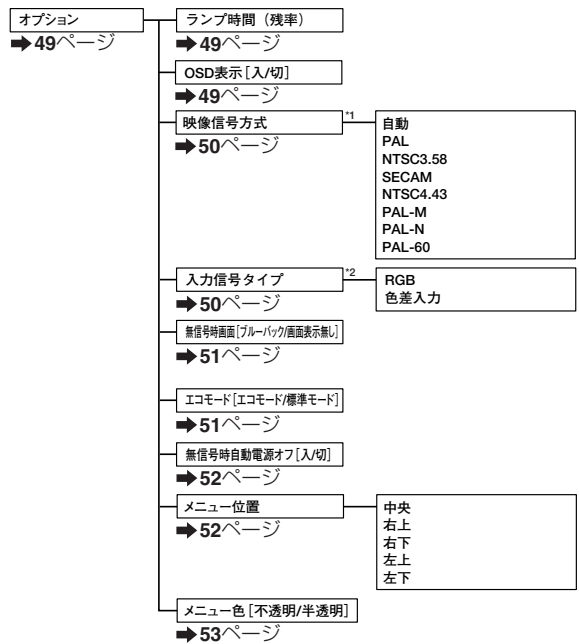
入力5（RGB）の画面例

*2：入力5にRGB信号が入力されているときに設定できる項目です。

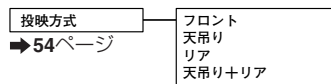
メモ

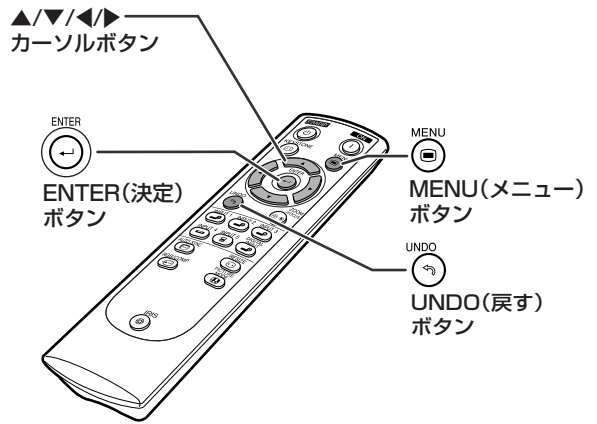
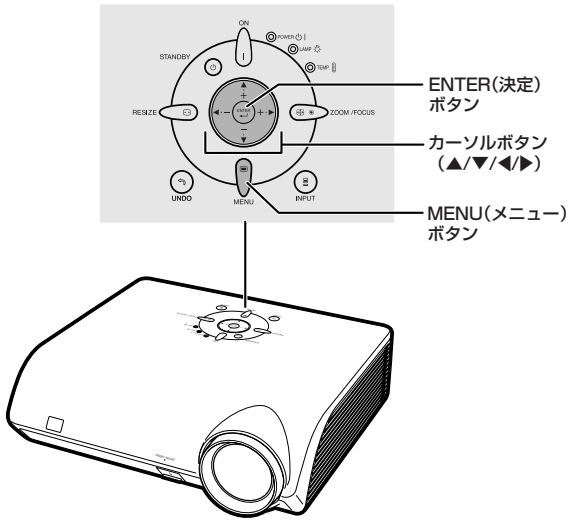
- 映像信号方式が「PAL」「SECAM」「PAL-M」「PAL-N」「PAL-60」の信号では、「映像調整」メニューの「色あい」は調整できません。
- デジタル入力モードでは、「色の濃さ」「色あい」「画質」「クロック」「水平位相」「水平位置」「垂直位置」「自動同期調整」の調整はできません。
- 「同期調整」メニューはINPUT3（入力3）/INPUT4（入力4）では表示されません。

「オプション」メニュー

入力1の画面例

入力4の画面例

*1:入力 3 か入力 4 を選択しているときに設定できる項目です。
*2:入力 5 を選択しているときに設定できる項目です。

「投映方式」メニュー

メニュー操作のしかた

メニューの操作は調整と設定の2つの方法があります。調整は次の手順に従って行います。
（設定方法は**42**～**43**ページをご覧ください。）

メニュー画面で調整する

本体のボタンを使って操作することもできます。

1 **MENU を押す**

- 選んでいる入力の「映像調整」メニュー画面が表示されます。

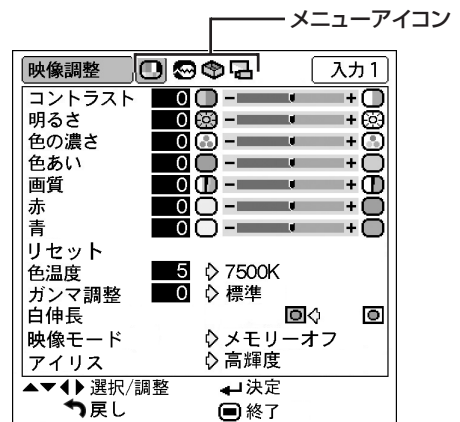
2 **▶ または◀ を押し、調整するメニュー画面を選ぶ**

- 選ばれたメニュー画面のアイコンの色が変わります。

メニューアイコン	メニュー画面
	映像調整
	同期調整
	オプション
	投映方式

メモ

- 入力3または入力4のときは「同期調整」メニュー画面は表示されません。

入力1の「映像調整」メニュー画面例

3 ▲または▼を押し、調整する項目を選ぶ

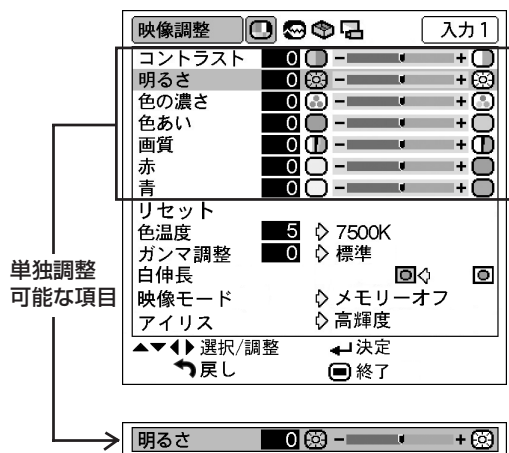
• 選ばれた調整項目の色が変わります。
ここでは例として「明るさ」を選択しています。

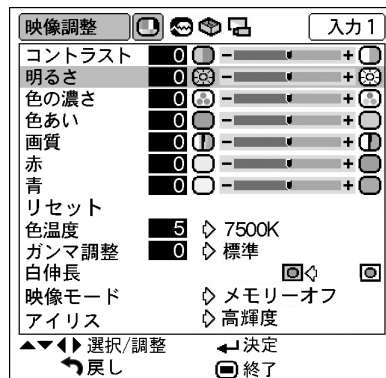
投映している画像を見ながら調整したいとき(単独表示)

 を押す

• 選んだ項目(例:「明るさ」など)が画面下へ単独表示されます。
• この項目の状態で▲または▼を押すと次の項目(「明るさ」で▼を押すと「色の濃さ」)が表示されます。

 メモ

• を押すと、前の画面に戻ります。

4 ◀または▶を押し、選んだ項目の調整(設定)をする

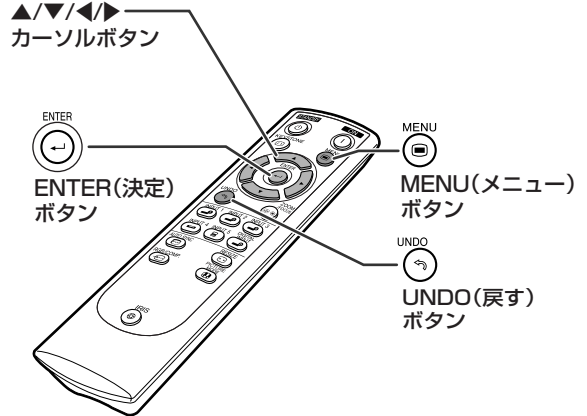
• 調整した内容が保存されます。

5 MENU を押す

• メニュー画面が消えます。

便利な機能

つづく

メニュー操作のしかた(つづき)

メニューの操作は調整と設定の2つの方法があります。
設定項目は、▷または◁で表示された項目のことです。設定は次の手順に従って行います。(調整方法は**40**〜**41**ページをご覧ください。)

メニュー画面で設定する

本体のボタンを使って操作することもできます。

1 **MENU ⊜を押す**

- 選んでいる入力の「映像調整」メニュー画面が表示されます。

入力1の「映像調整」メニュー画面例

メニューアイコン

映像調整　入力 1
コントラスト　0
明るさ　0
色の濃さ　0
色あい　0
画質　0
赤　0
青　0
リセット
色温度　5　▷ 7500K
ガンマ調整　0　▷ 標準
白伸長
映像モード　▷ メモリーオフ
アイリス　▷ 高輝度
▲▼◀▶ 選択/調整　↵ 決定
↰ 戻し　⊜ 終了

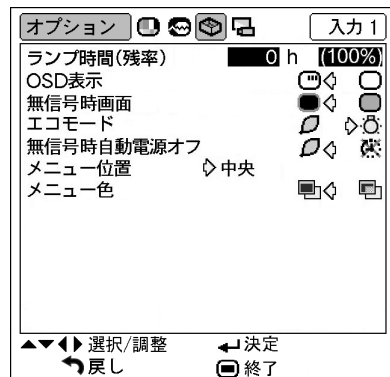
2 **▶ または◀ を押し、調整するメニュー画面を選ぶ**

- 選ばれたメニュー画面のアイコンの色が変わります。

メニューアイコン	メニュー画面
	映像調整
	同期調整
	オプション
	投映方式

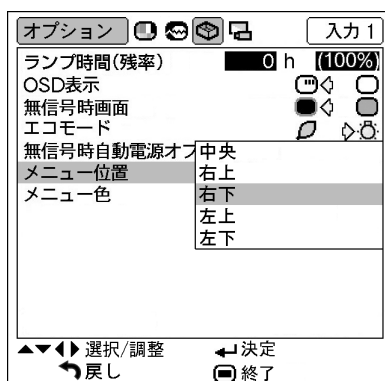
メモ

- 入力3または入力4のときは「同期調整」メニュー画面は表示されません。

例:「オプション」メニューを選んだとき

3 ▲または▼を押し、設定する項目を選び、▶ を押しサブメニューを表示する

• 選ばれた設定項目の色が変わります。
ここでは例として「メニュー位置」を選択しています。

> **メモ**
> • UNDO (ボタン)または◀を押すと、前の画面に戻ります。
> • 項目によっては、◀ または▶ボタンを押し「(アイコン)」でアイコンを選び設定します。

4 ▲または▼を押し、サブメニューに表示された設定を選ぶ

5 ENTER (ボタン)を押す

• 選んだ項目が設定されます。

6 MENU (ボタン)を押す

• メニュー画面が消えます。

便利な機能

投映した映像を調整・設定する（映像調整メニュー）

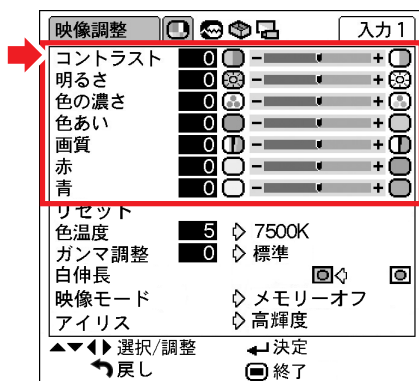
映像の濃淡や明るさを見やすく調整することができます。

見やすい映像に調整する

操作方法➡**40**ページ参照

メモ

- 「映像調整」メニューで設定する内容を保存しておきたい場合は、先に映像モード（メモリー1～5、またはメモリーオフ）を選択してください。（**46**ページ）

入力1の「映像調整」メニュー画面例

調整項目の詳細

調整項目	◀ボタン	▶ボタン
コントラスト	コントラストを弱くします。	コントラストを強くします。
明るさ	画像を暗くします。	画像を明るくします。
色の濃さ	うすい色にします。	濃い色にします。
色あい	紫がかった色あいにします。	緑がかった色あいにします。
画質	画像の輪郭をやわらかくします。	画像の輪郭をくっきりさせます。
赤	赤みを弱くします。	赤みを強くします。
青	青みを弱くします。	青みを強くします。

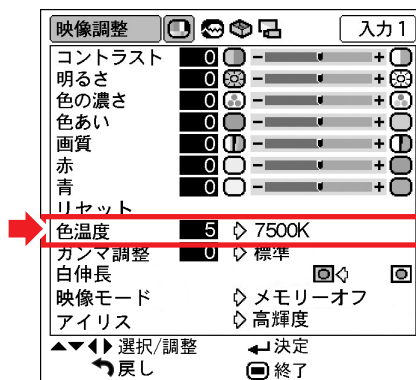
メモ

- INPUT（入力）5を選んでいるとき、「入力信号タイプ」が「RGB」のとき、「色の濃さ」「色あい」「画質」は表示されません。
- 設定を工場出荷時の状態に戻したいときは、「リセット」を選び ENTER を押します。
- INPUT（入力）3またはINPUT（入力）4を選んでいるとき、「PAL」「SECAM」「PAL-M」「PAL-N」「PAL-60」の信号では、「色あい」は調整できません。
- デジタル入力モードのとき、「色の濃さ」「色あい」「画質」の調整はできません。

色味を変える（色温度設定）

色温度の数値を高い方にしていくと青みがかった映像に、数値を低い方にしていくと赤みがかった映像になります。

操作方法➡**42**ページ参照

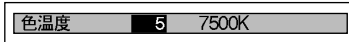
入力1の「映像調整」メニュー画面例

色温度設定の詳細

色温度	内　容
5500K	赤みがかった映像になります。（温かい感じの色にしたいとき）
6500K	↕
7500K	
8500K	
9300K	青みがかった映像になります。（冷たい感じの色にしたいとき）
10500K	

「色温度」は微調整することができます。
微調整するときは、次の手順で行います。

1 「映像調整」メニュー画面で「色温度」にカーソルを合わせ、ENTER を押す

- 「色温度」項目が単独表示されます。

色温度 5 7500K

2 ▲または▼を押し、色温度を微調整する

- 色温度の数値を高い方にしていくと緑がかった映像に、低い方にしていくと赤みがかった映像になります。
- ◀または▶を押すと、この表示のままで色温度を選択することができます。

メモ

- 「色温度」の数値はおおよそのものです。

ガンマ補正を設定する

映像の違いや、部屋の明るさの違いにより映像が見えにくい場合は、ガンマ補正機能を使って見やすくできます。映画やコンサートなど暗いシーンの多い映像を見たり、明るい部屋で映像を見たりする場合は、この機能を使うと、より見やすい映像が楽しめます。

操作方法➡**42**ページ参照

入力1の「映像調整」メニュー画面例

映像調整 入力1
コントラスト 0
明るさ 0
色の濃さ 0
色あい 0
画質 0
赤 0
青 0
リセット
色温度 5 7500K
ガンマ調整 0 標準
白伸長
映像モード メモリーオフ
アイリス 高輝度
▲▼◀▶ 選択/調整 決定
戻し 終了

選択項目	内　容
標準	標準設定です。
シネマ1	画面の暗い部分の階調表現を強調して豊かにします。
シネマ2	ギラつきをおさえて落ち着いたトーンになります。
シネマ3	画像の暗い部分の輝度を高め、少し照明の残った部屋で画像を見やすくします。

「ガンマ調整」は微調整することができます。
微調整するときは、次の手順で行います。

1 「映像調整」メニュー画面で「ガンマ調整」にカーソルを合わせ、ENTERを押す

- 「ガンマ調整」項目が単独表示されます。

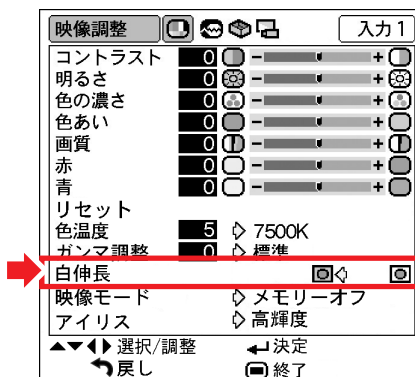
ガンマ調整 0 標準

2 ▲または▼を押し、ガンマを微調整する

- ガンマの数値を高い方にしていくと明るさが増し、低い方にしていくと明るさがおさえられます。
- ◀ または ▶を押すと、この表示のままでガンマ調整の項目を選択することができます。

白伸長を設定する

映像のうちの高輝度部分を強調することができます。

操作方法➡**42**ページ参照

入力1の「映像調整」メニュー画面例

選択項目	内　容
(入)	白伸長機能が「入」になります。
(切)	白伸長機能が「切」になります。

便利な機能

投映した映像を調整・設定する（映像調整メニュー）（つづき）

映像調整した内容を登録する

「映像調整」メニューで設定した内容を登録することができます。登録した内容は、入力モードや入力信号タイプに関係なく、後から呼び出して使用することができます。

操作方法➡42ページ参照

入力1の「映像調整」メニュー画面例

■登録するとき

「映像調整」メニューで設定する前に、登録する映像モードメモリーを選択しておきます。

映像モード	内　容
メモリー1 ～ メモリー5	「映像調整」メニューのすべての項目の調整値が選択した映像モードメモリーに登録されます。 登録された内容（メモリー1～5）は、どの入力モードからでも呼び出すことができます。
メモリーオフ	各入力モード（INPUT1～5、デジタル）ごとの映像調整値を登録できます。ここで登録された調整値は、他の入力モードを選択した場合には反映されません。

■登録した内容を呼び出すとき

入力モードを選択し、PICTURE MODE を押して登録したメモリーを選択します。または、「映像調整」メニューの映像モードからメモリーを選択します。

■登録した内容を変更するとき

変更する映像モードメモリーを選択してから、「映像調整」メニューの内容を変更します。

高輝度モード/高コントラストモード切換機能を使用する（アイリス設定）

高輝度モード/高コントラストモード切換機能を使うと、映像の明るさやコントラストの強さを切り換えることができます。この機能はリモコンのIRIS（アイリス）ボタンでも設定できます。

操作方法➡42ページ参照

入力1の「映像調整」メニュー画面例

アイリス設定の詳細

選択項目	内　容
高輝度	コントラストより明るさを優先させたモード
高コントラスト	明るさよりコントラストを優先させたモード

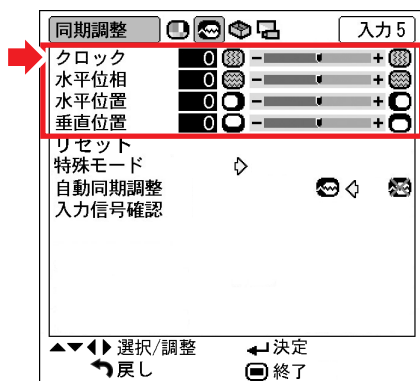
コンピュータの画面を調整・設定する(同期調整メニュー)

同期調整と表示モードの設定や入力信号の確認が行えます。

縦縞模様やチラツキを軽減する（同期調整）

縦縞模様やチラツキが気になるときは同期調整してください。

操作方法➡40ページ参照

入力5（RGB）モードの「同期調整」メニュー画面例

同期調整の詳細

調整項目	調整内容
クロック	垂直ノイズを調整します。
水平位相	水平ノイズを調整します（トラッキング調整）。
水平位置	スクリーン上の映像を左右に移動させます。
垂直位置	スクリーン上の映像を上下に移動させます。

メモ

- コンピュータの映像は「同期調整」メニューの「自動同期調整」を「」（入）にするか、リモコンの AUTO SYNC を使うと、簡単に調整できます。（48ページ）
- デジタル入力モードでは、「クロック」「水平位相」「水平位置」「垂直位置」の調整はできません。
- 「入力信号タイプ」を「色差入力」にしたときは、「クロック」「水平位相」の調整はできません。
- それぞれの項目の調整範囲は、入力信号により変わることがあります。
- 設定を工場出荷時の状態に戻したいときは、「リセット」を選び ENTER を押します。

入力信号に合わせた解像度を選ぶ（特殊モード設定）

通常、入力信号の種類が判別されると、自動的に正しい解像度モードが選択されますが、信号の種類によっては、コンピュータの表示モードに合わせる設定を行う必要があります。

操作方法➡42ページ参照

入力5（色差）モードの「同期調整」メニュー画面例

メモ

- コンピュータの1ラインおきに繰り返されるパターン（水平方向の縞模様）を表示させると、チラツキがおこり、画面が見にくくなる場合があります。
- 現在選択されている入力信号の情報を確認する場合は、「入力信号の情報を確認する（入力信号確認）」（48ページ）をご覧ください。

つづく

コンピュータの画面を自動調整する

(自動同期調整機能)

プロジェクターがコンピュータに接続されている状態で信号を切り換えたときに、自動同期調整をするか、しないかを選択することができます。
操作方法➡**42**ページ参照

入力5(RGB)モードの「同期調整」メニュー画面例

自動同期調整機能の詳細

選択項目	内　　容
(入)	プロジェクターがコンピュータに接続されている状態で、プロジェクターの電源を入れたときや、入力を切り換えたときに、自動的に同期調整を行います。
(切)	自動同期調整を行いません。

メモ

- 自動同期調整はリモコンのAUTO SYNCを使って行うこともできます。
- 自動同期調整は投映するコンピュータの映像によっては時間がかかる場合があります。
- 自動同期調整を行っても、お客様の意図した映像にならない場合は、手動で同期調整(**47**ページ)を行ってください。
- デジタル入力モードのときは、「自動同期調整」は設定できません。また、動作もしません。

入力信号の情報を確認する

(入力信号確認)

現在選択されている入力信号の情報を確認できます。
操作方法➡**42**ページ参照

入力5(RGB)モードの「同期調整」メニュー画面例

- DVI 1125I信号を入力したときは、540Pと表示されます。

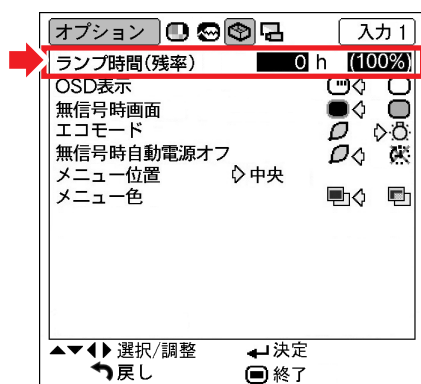
本機を楽しむための設定をする(オプションメニュー)

「オプション」メニュー画面を使ってさまざまな設定を行うことができます。

ランプ使用時間を確認する
(ランプ時間(残率))

ランプの使用時間と残率が表示されます。

操作方法➡**42**ページ参照

入力1の「オプション」メニュー画面例

ランプ時間(残率)の詳細

ランプ使用条件		ランプ使用可能時間	
	残率表示	100%	5%
常に「」(エコモード)にして使用		約3,000時間	約150時間
常に「」(標準モード)にして使用		約2,000時間	約100時間

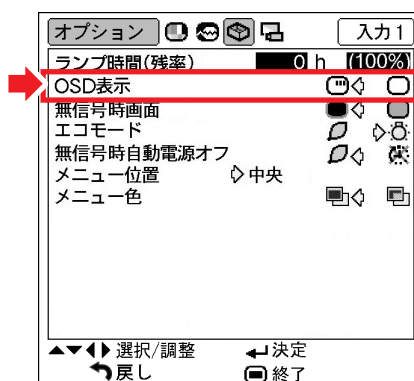
メモ

- ランプは、ランプ残率が5%で交換することをおすすめします。(**58**ページ)
- 上の表は、「」(エコモード)または「」(標準モード)それぞれのモードのみで継続使用した場合を例に記載しています。
- ランプ残率(%)は「」(エコモード)または「」(標準モード)へ切り換える割合により増減します。(**51**ページ)
- 本機のランプ寿命は、使用状況によって変わることがあります。

画面に表示されている情報を消す
(OSD表示)

この機能を使うと、INPUT(入力切換)ボタンを押したときなどに表れる画面の表示を消すことができます。

操作方法➡**42**ページ参照

入力1の「オプション」メニュー画面例

OSD表示の詳細

選択項目	内　容
(入)	画面表示のすべてが表示されます。
(切)	入力モード表示、自動同期調整表示、「無効なボタンが押されました」は表示されません。

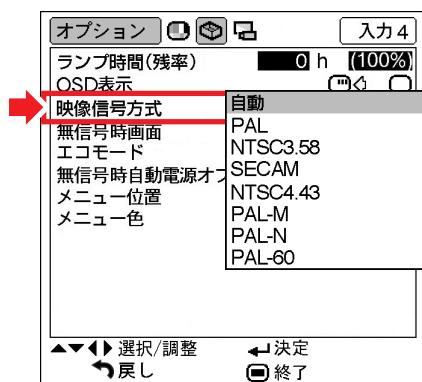
つづく

本機を楽しむための設定をする（オプションメニュー）（つづき）

INPUT3(入力3)端子/INPUT4(入力4)端子に接続した機器の映像信号方式を設定する(映像信号方式設定)

映像信号方式は工場出荷時、「自動」に設定されています。しかし「自動」では映像信号方式の違いにより、接続したAV機器の映像が鮮明に投映できない場合があります。そのようなときは、映像信号方式を切り換えてください。

操作方法➡ **42**ページ参照

入力4の「オプション」メニュー画面例

映像信号方式設定の詳細

選択項目	内　容
PAL	PAL方式の映像機器を接続したとき
SECAM	SECAM方式の映像機器を接続したとき
NTSC4.43	PAL方式の機器でNTSCの方式の映像を再生したとき
NTSC3.58	NTSC方式の映像機器を接続したとき

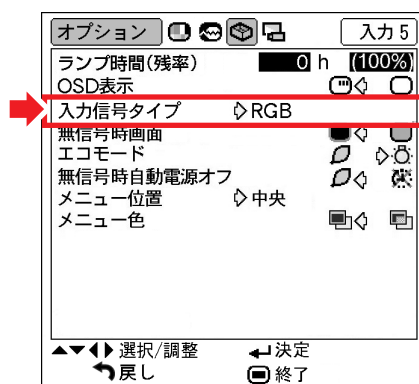
メモ

- 映像信号方式は、INPUT1（入力1）／INPUT2（入力2）／INPUT5（入力5）／DIGITAL INPUT（デジタル）モードでは設定できません。
- 「自動」では「PAL-M」と「PAL-N」には対応していません。入力信号が「PAL-M」または「PAL-N」のときは、「映像信号方式」をそれぞれの入力信号に切り換えてください。

INPUT5端子に接続した機器の信号タイプを設定する(入力信号タイプ設定)

INPUT5端子に接続した入力信号に合わせてRGBかコンポーネント（色差）を選択します。

操作方法➡ **42**ページ参照

入力5（RGB）モードの「オプション」メニュー画面例

入力信号タイプ設定の詳細

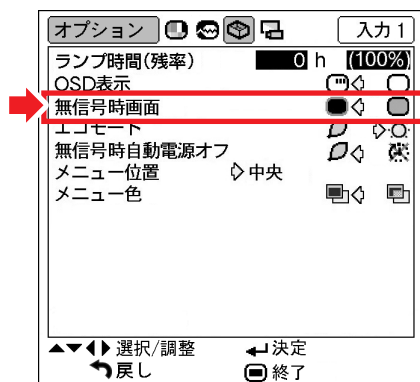
選択項目	内　容
RGB	RGB信号を入力したときに設定します。
色差入力	コンポーネント（色差）信号を入力したときに設定します。

メモ

- 「入力信号タイプ」は、リモコンの を押しても切り換えできます。（入力5モードでのみ働きます。）

無信号時画面を設定する
(無信号時画面設定)

プロジェクターに信号が送られていないとき、表示する画面を選ぶことができます。

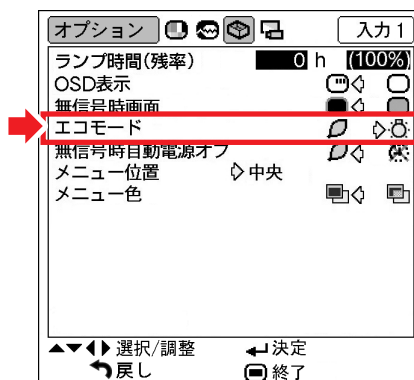
操作方法➡42ページ参照

入力1の「オプション」メニュー画面例

無信号時画面設定の詳細

選択項目	内　　容
(ブルーバック)	青い画面
(画面表示無し)	黒い画面

消費電力を低減する
(エコモード設定)

操作方法➡42ページ参照

入力1の「オプション」メニュー画面例

エコモード設定の詳細

選択項目	輝度	消費電力(AC100Vのとき)	ランプ寿命
(エコモード)	85%	315W	約3,000時間
(標準モード)	100%	360W	約2,000時間

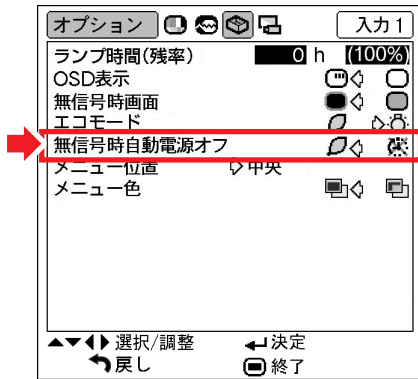
メモ

- 「 」(エコモード)を選択すると、「 」(標準モード)と比べて、消費電力が低減すると同時にランプ寿命が長くなります。(投映画面の輝度も約15%低減します。)

無信号状態が続くときに電源を自動的に待機状態にする

（無信号時自動電源オフ機能）

操作方法➡42ページ参照

入力1の「オプション」メニュー画面例

無信号時自動電源オフ設定の詳細

選択項目	内　容
（入）	15分以上入力信号が検出されないと、プロジェクターは自動的に待機状態になります。
（切）	無信号状態が15分以上続いても、電源「入」の状態を保持します。

メモ

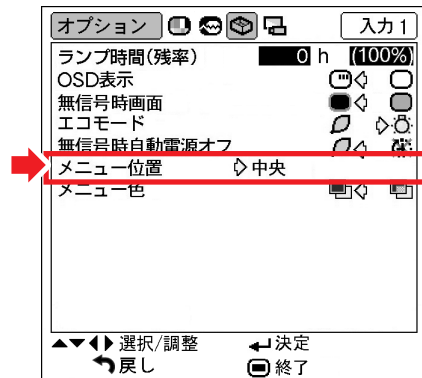
- 無信号時自動電源オフ機能が「 」（入）に設定されているときは、待機状態になる5分前になると、1分ごとに「●分後に待機状態」の表示がでます。

メニューを見やすい位置に設定する

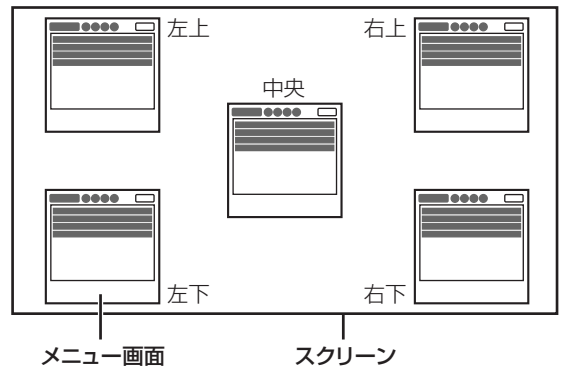
（メニュー位置設定）

メニュー画面をスクリーンのどこに表示させるのかを設定することができます

操作方法➡42ページ参照

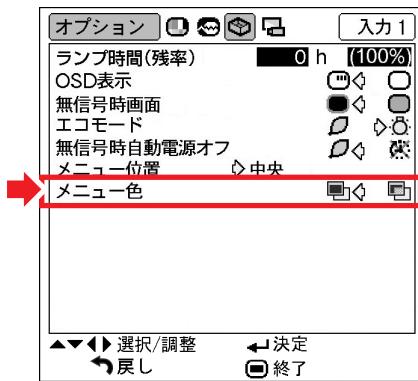
入力1の「オプション」メニュー画面例

メニュー位置設定の詳細

選択項目	内　容
中央	スクリーン中央にメニュー画面が表示されます。
右上	スクリーン右上にメニュー画面が表示されます。
右下	スクリーン右下にメニュー画面が表示されます。
左上	スクリーン左上にメニュー画面が表示されます。
左下	スクリーン左下にメニュー画面が表示されます。

スクリーンに表示されるメニュー画面の位置

メニューの色を設定する

メニュー表示を不透明にするのか半透明にするのか選択できます。

操作方法➡**42**ページ参照

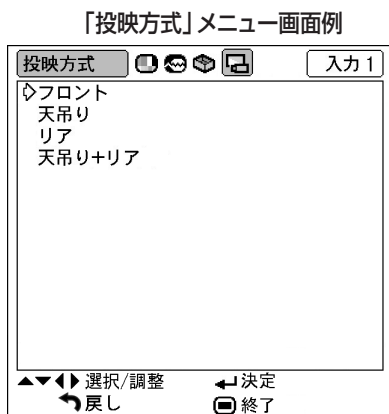
入力1の「オプション」メニュー画面例

選択項目	内　　容
(不透明)	メニュー表示内の背景色が青くなります。
(半透明)	メニュー表示内が半透明になります。メニュー表示の一部は透明になります。

映像を左右反転／上下反転する

投映環境に合わせた投映方式を選択する（投映方式設定）

本機は投映する環境に合わせて映像を左右／上下反転する機能を備えていますので、いろいろな対応が可能です。

操作方法➡42ページ参照

「投映方式」メニュー画面例

投映方式設定の詳細

選択項目	内　　容
フロント	通常映像
天吊り	上下反転された映像
リア	左右反転された映像
天吊り+リア	左右／上下反転された映像

フロント　　天吊り

リア　　天吊り＋リア

メモ

- この機能はプロジェクターをスクリーンの後ろから投映したり、天井に取り付けて投映する場合に設定します。

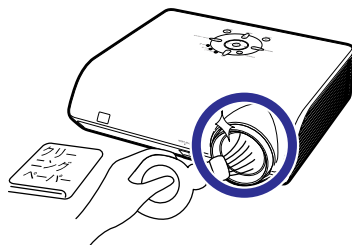
お手入れのしかた

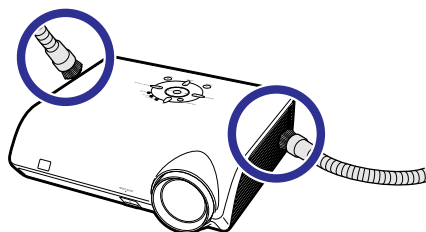
キャビネットのお手入れのしかた

■ キャビネットをお手入れするときは、必ず電源コードを抜いて行ってください。
■ キャビネットや操作パネル部分はプラスチックが多く使われています。ベンジン、シンナーなどでふくと変質したり、塗料がはげることがありますのでご使用にならないでください。
■ 殺虫剤など、揮発性のものをかけないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。
プラスチックのなかに含まれる可塑剤の作用により変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。

■ 汚れはネルなど柔らかい布で軽くふきとってください。
■ 汚れがひどいときは水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
強力な洗剤を使用した場合、変色、変質、塗料がはげる場合があります。目立たない場所で試してから、お手入れすることをおすすめします。

レンズのお手入れのしかた

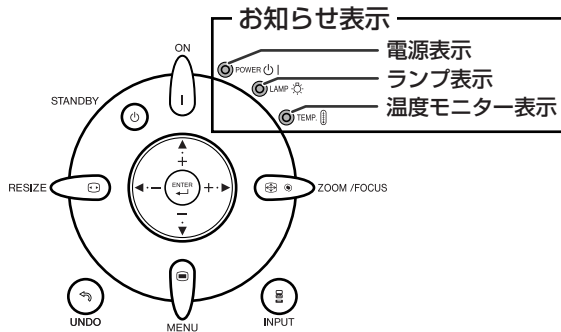
■ レンズの清掃は、市販のブロワーやレンズクリーニングペーパー(メガネやカメラなどの清掃に使用)で行ってください。この際、液状のクリーニング剤は使用しないでください。表面のコーティング膜がはがれる原因となります。
■ 表面は傷つきやすいのでこすったり、たたいたりしないでください。

排気孔や吸気孔のお手入れのしかた

■ 排気孔や吸気孔の清掃は、掃除機でゴミ、ホコリを吸い取ってください。

お知らせ

- プロジェクターの通風孔の掃除を行う場合は、本体の STANDBY ⏻ またはリモコンの STANDBY ⏻ を押して電源を待機状態にした後、冷却ファンが止まってから、電源プラグを本機から抜いて行ってください。

付録

お知らせ表示について

■本機では、内部の異常をお知らせ表示が点灯してお知らせします。
■内部に異常が生じると、その異常の現象によって、温度モニターもしくはランプ表示が赤色に点灯し電源が待機状態になります。以下の処置を行ってください。

温度モニター機能について

設置状況や通風孔の目づまり等により内部温度が高温になると、画面左下に「温度」が表示されます。さらに温度が上昇すると、ランプが消灯し温度モニター表示が点滅、90秒のファン冷却後、待機状態になります。画面左下に「温度」の表示が出た時点で**57**ページの表の内容に従い処置をしてください。

ランプ交換お知らせ機能について

■ ランプ残率が5%以下になると、「（黄色）」と「ランプを交換してください。」が画面に表示されます。残り時間が0%になると、「（赤色）」と「ランプを交換してください。」が画面に表示され、自動的にランプ（光源）が消灯し、電源が待機状態になります。このとき、ランプ表示が赤色点灯します。
■ ランプを交換せずに電源を入れ直すと、**4回目からは電源が入らなくなります**のでご注意ください。

<table>
<tr><th colspan="3">お知らせ表示</th><th rowspan="2">現　　象</th><th rowspan="2">考えられる原因</th><th rowspan="2">処置のしかた</th></tr>
<tr><th></th><th>正　常</th><th>異　常</th></tr>
<tr><td rowspan="2">温度モニター表示</td><td rowspan="2">消　灯</td><td rowspan="2">赤色点灯
待機状態</td><td rowspan="2">内部温度が高温になっている</td><td>●通風孔がふさがれている</td><td>●正しい設置場所に設置してください。（10ページ）</td></tr>
<tr><td>●冷却ファンの故障
●内部回路の故障
●内部通風孔の目づまり</td><td>●販売店、またはもよりのシャープお客様ご相談窓口（66ページ）に修理を依頼してください。
●排気孔や吸気孔のお手入れをしてください。（55ページ）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ランプ表示</td><td rowspan="3">緑色点灯
（緑色点滅は光源起動中または終了中）</td><td rowspan="2">赤色点灯</td><td>ランプが正常に起動（点灯）しない</td><td>–</td><td>●電源プラグをコンセントから抜き、再度差し込んで電源を入れてください。</td></tr>
<tr><td>ランプ交換時期</td><td>●ランプ残率が5%以下になった</td><td rowspan="2">●ランプを交換してください。（58ページ）
●ランプの交換または修理は販売店、またはもよりのシャープお客様ご相談窓口（66ページ）にお問い合わせください。
●ランプを交換するときは、注意して行ってください。</td></tr>
<tr><td>赤色点灯
待機状態</td><td>ランプ（光源）が点灯しない</td><td>●ランプ（光源）が切れた
●ランプ（光源）点灯回路故障</td></tr>
</table>

お知らせ

- 温度モニター表示が点滅し、電源が待機状態になったときは、排気孔や吸気孔がふさがれていないことを確認（**10**ページ）し、再度電源を入れてください。再度電源を入れる場合は、内部温度が十分に下がるまで(10分以上)待ち、電源プラグをいったんコンセントから抜いて電源を入れ直してください。
- プロジェクターを使用しているときに、停電などで一瞬電源が切れた直後に電源が復旧した場合、ランプ表示が赤色点灯し、ランプが点灯しなくなることがあります。このときは、電源プラグをいったんコンセントから抜いて、再度電源を入れ直してください。
- 投映中および冷却ファンの動作中に電源プラグを抜かないでください。冷却ファンも同時に止まるため、温度上昇により故障の原因となります。

ランプを交換する

ランプについて

■ 光源として使われているランプは消耗品です。「ランプ時間（残率）」のランプ残率が5%以下になったときは、早めに新しいランプユニット（別売）と交換してください。5%以上のランプ残率でも、使用中にランプが切れることがありますので、映像が暗くなったり、色あいが悪くなってきた場合は早めに新しいランプユニットと交換してください。ランプ残率（パーセント表示）は、画面表示で確認できます。（**49**ページ参照）

■ ランプの保証期間は、6ヵ月1,000時間以内（エコモード：ランプ残率約67% / 標準モード：ランプ残率約50%）です。6ヵ月以内でも1,000時間を超えたり、1,000時間以内でも6ヵ月を過ぎたときは、保証の対象となりませんのでご注意ください。

■ 別売のランプユニット（形名：AN-K2LP）は、お買いあげの販売店でご購入ください。

⚠ 警告

• ランプの強い光は視力障害などの原因となります。プロジェクターが動作しているときは、プロジェクターのレンズや強い光が出ているすき間をのぞきこまないでください。

禁止

ランプ使用上のご注意

■ プロジェクターの光源には、内部圧力の高い水銀ランプが使われています。当ランプは衝撃やキズ、使用時間の経過による劣化などで、大きな音をともなって破裂したり、不点灯状態となって寿命が尽きたりする特性があります。
また、当ランプは、個体差や使用条件によって破裂や不点灯にいたるまでの時間に大きな差があります。

■ 「ランプ表示」が点灯した場合は、ランプが正常に点灯している状態でも、すみやかに新しいランプと交換してください。

■ 当ランプが破裂したときは、プロジェクター内部にガラス片が散乱している可能性がありますので、サービスマンまたは販売店にランプの交換と内部の点検を依頼してください。

⚠ 警告

• 当ランプが破裂したとき、ランプハウスにガラスの破片が飛び散ったり、ランプ内部のガスがプロジェクターの排気孔から出たりすることがあります。当ランプ内部のガスには水銀が含まれていますので破裂した場合は十分な換気をしてください。万一吸い込んだり、目に入ったり口に入った場合には、すみやかに医師にご相談ください。

医師に相談する

ランプ交換時のご注意

⚠ 警告

• ランプユニットは、操作直後にプロジェクターから取り外さないでください。ランプが高温になっていることがあり、やけどの原因となります。
• ランプユニットを取り外すときは、電源コードを抜いて少なくとも**1時間以上放置**し、ランプユニットの表面が完全に冷めたことを確認してから行ってください。

禁止

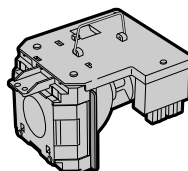
ランプ交換は、次ページで説明している操作手順に従い注意して行ってください。
*なおランプ交換は、お客様のご希望によりお近くの販売店で行うことも可能です。

1時間以上放置する

* 新しいランプユニットに交換後、ランプが点灯しない場合には、お近くの販売店にご連絡ください。

ランプ交換のしかた

- 本機が動作中、ランプユニットは大変高温になります。ランプユニットは操作直後に本機から取り外さないでください。
ランプユニットおよびその周辺が高温になっていることがあり、やけどの原因となります。

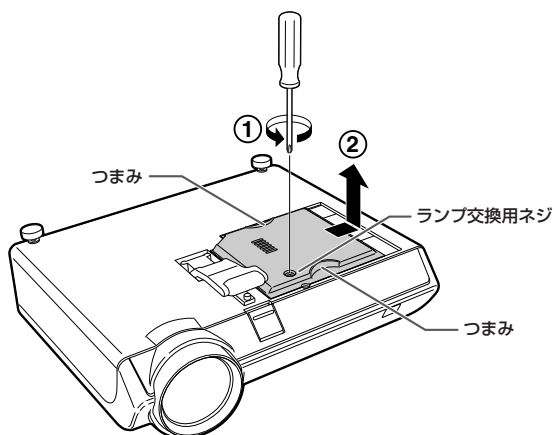
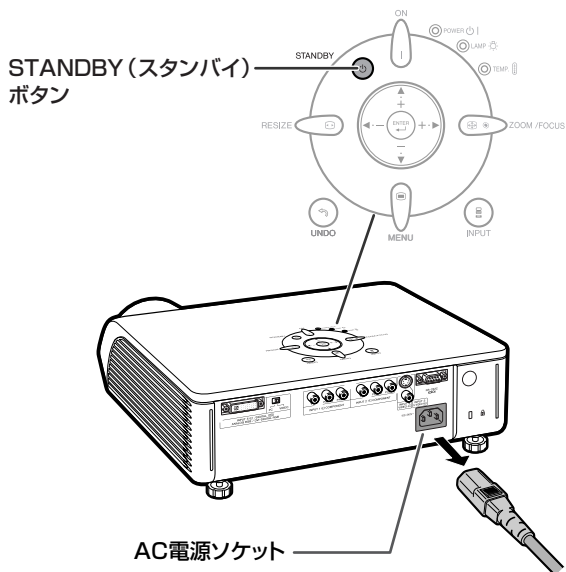
お知らせ
- 取っ手をつかんで、ランプユニットを取り外してください。ランプユニットのガラス表面やプロジェクター本体の内部には触れないでください。
- ケガやランプの破損を防ぐため、手順にそって作業を行ってください。
- ランプユニットカバーとランプユニット以外のネジは絶対に外さないでください。

1 本体の STANDBY ⏻ またはリモコンの STANDBY ⏻ を押しプロジェクターを待機状態にする

- 冷却ファンが止まるまで待ちます。

2 電源コードをプロジェクターから取り外す

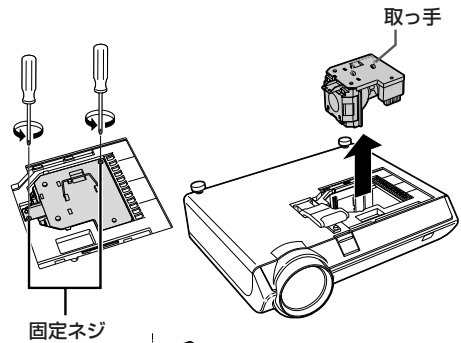
- 電源コードをAC電源ソケットから外します。
- **ランプユニットが十分冷えるまで（約1時間）放置します。**

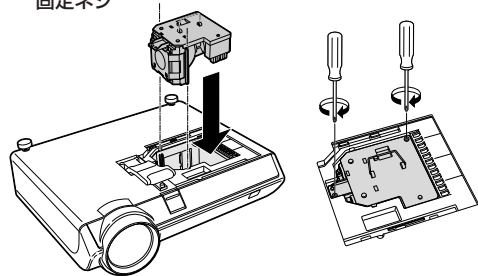
3 ランプユニットカバーを取り外す

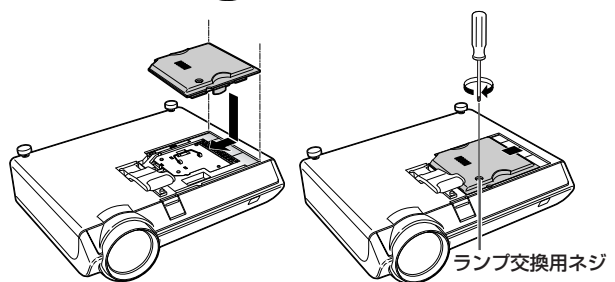
- プロジェクターを裏返しにして、ランプユニットカバーを固定しているランプ交換用ネジをゆるめます（①）。つまみ部分をつかみ、矢印の方向にスライドさせてランプユニットカバーを取り外します（②）。

つづく

ランプを交換する(つづき)

4 ランプユニットを取り外す

- ランプユニットの固定ネジ(2ヵ所)をゆるめ、取っ手をつかんで、ランプユニットを水平に保ちながら傾けないようにして矢印の方向に引き出します。

5 新しいランプユニットを挿入する

- ランプユニットをしっかりとランプユニット収納部に押し込みます。固定ネジをしめます。

6 ランプユニットカバーを取り付ける

- ランプユニットカバーを本体に合わせてからスライドさせランプユニットカバーを取り付けます。ランプ交換用ネジを閉め、ランプユニットカバーを固定します。

お知らせ

- 電源コードが接続されていてもランプユニットとランプユニットカバーが正しく取り付けられていないと、電源が入りません。

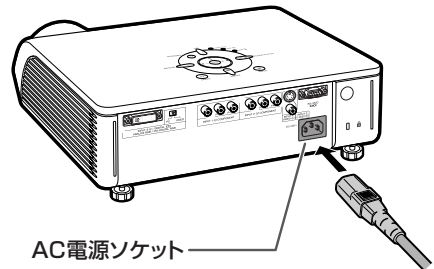
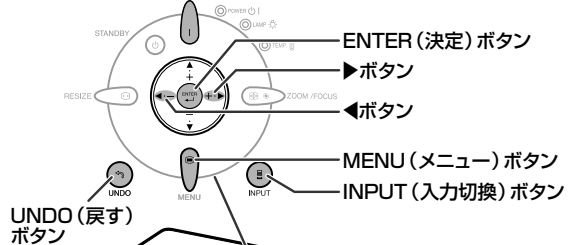
ランプ使用時間をリセットする

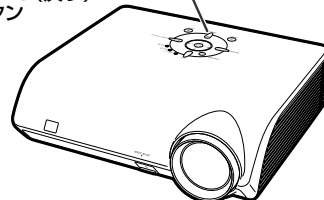
ランプ交換を行ったときは、ランプ使用時間をリセットしてください。

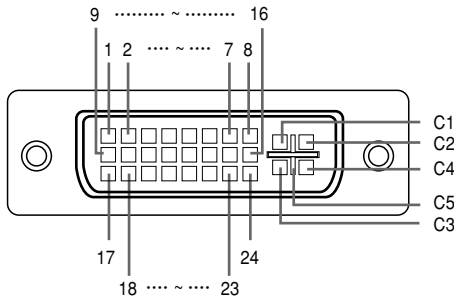
お知らせ

- ランプ使用時間のリセットは、ランプ交換時以外は行わないでください。ランプ使用時間をリセットして、規定以上ランプを使用すると破裂や故障の原因になります。

1 電源コードをプロジェクターに接続する

- 電源コードをプロジェクターのAC電源ソケットに接続します。

2 ランプ使用時間をリセットする

- プロジェクター本体のON、INPUT、UNDO、◀、ENTER、▶を続けて順番に押します。その後、ONを押します。
- ランプ使用時間がリセットされ、「LAMP 0000H」が画面左下に表示されます。

本体のコネクタのピン配置

DVIデジタル（INPUT（入力）5）端子：29ピンコネクタ

●DVIデジタル入力

ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	T.M.D.Sデータ2−	16	ホットプラグ検出
2	T.M.D.Sデータ2+	17	T.M.D.Sデータ0−
3	T.M.D.Sデータ2シールド	18	T.M.D.Sデータ0+
4	NC	19	T.M.D.Sデータ0シールド
5	NC	20	NC
6	DDCクロック	21	NC
7	DDCデータ	22	T.M.D.Sクロックシールド
8	NC	23	T.M.D.Sクロック+
9	T.M.D.Sデータ1−	24	T.M.D.Sクロック−
10	T.M.D.Sデータ1+	C1	NC
11	T.M.D.Sデータ1シールド	C2	NC
12	NC	C3	NC
13	NC	C4	NC
14	+5V電源	C5	接地
15	接地		

●DVIアナログRGB入力

ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	NC	16	ホットプラグ検出
2	NC	17	NC
3	NC	18	NC
4	NC	19	NC
5	NC	20	NC
6	DDCクロック	21	NC
7	DDCデータ	22	NC
8	アナログ垂直同期	23	NC
9	NC	24	NC
10	NC	C1	映像（赤）
11	NC	C2	映像（緑）
12	NC	C3	映像（青）
13	NC	C4	アナログ水平同期
14	+5V電源	C5	接地
15	接地		

●DVIアナログコンポーネント（色差）入力

ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	NC	16	NC
2	NC	17	NC
3	NC	18	NC
4	NC	19	NC
5	NC	20	NC
6	NC	21	NC
7	NC	22	NC
8	NC	23	NC
9	NC	24	NC
10	NC	C1	Pr/Cr
11	NC	C2	Y
12	NC	C3	Pb/Cb
13	NC	C4	NC
14	NC	C5	接地
15	接地		

RS-232C端子：9ピンD-sub雄コネクタ

ピン番号	信号	信号名	入/出	参考
1				NC
2	RD	受信データ	入力	内部回路に接続
3	SD	送信データ	出力	内部回路に接続
4		予備		内部回路に接続
5	SG	信号接地		内部回路に接続
6		予備		内部回路に接続
7		予備		内部回路に接続
8		予備		内部回路に接続
9				NC

RS-232C仕様とコマンドの設定

コンピュータによるプロジェクターの制御

コンピュータをRS-232Cシリアル制御ケーブル（クロスタイプ、別売品）でプロジェクターに接続すると、コンピュータでプロジェクターを操作できます。（接続については**29**ページをご覧ください。）

通信条件

コンピュータのシリアルポートを、次のように設定します。

信号形式　　：RS-232C規格に準拠
ボーレート　：9,600 bps
データ長　　：8ビット
パリティビット：なし
ストップビット：1ビット
フロー制御　：なし

基本形式

コンピュータからのコマンドは、コマンド、パラメータ、リターンコードの順に送ってください。プロジェクターがコンピュータからのコマンドを処理すると、コンピュータにレスポンスコードを送ります。

コマンド形式

C1	C2	C3	C4	P1	P2	P3	P4	リターンコード（0DH）
コマンドの4桁				パラメータの4桁				

レスポンスコード形式

通常のレスポンス

O	K	リターンコード（0DH）

問題のあるレスポンス（通信エラーや不正なコマンド）

E	R	R	リターンコード（0DH）

お知らせ

- コンピュータからRS-232Cコマンドを使ってプロジェクターを制御している場合は、電源を入れた後、30秒以上待ってからコマンドを送信してください。
- 複数のコードを送信する場合には、前のコマンドのレスポンスコードがプロジェクターから送られたあとで、次のコマンドを送信してください。
- プロジェクターのコンピュータ制御機能を使っているとき、プロジェクターの動作状況はコンピュータでは読み取れません。

コマンド

例: プロジェクターの電源を入れる場合

	制御する内容	コマンド				パラメータ				リターン
ボタン&リモコンのキー	電源オン	P	O	W	R	_	_	_	1	OK または ERR
	スタンバイ	P	O	W	R	_	_	_	0	OK または ERR
	入力1（コンポーネント1）	I	V	E	D	_	_	_	1	OK または ERR
	入力2（コンポーネント2）	I	V	E	D	_	_	_	2	OK または ERR
	入力3（S映像）	I	V	E	D	_	_	_	3	OK または ERR
	入力4（映像）	I	V	E	D	_	_	_	4	OK または ERR
	入力5（RGB/コンポーネント）	I	V	E	D	_	_	_	5	OK または ERR
	デジタル入力	I	V	E	D	_	_	_	6	OK または ERR

- パラメータの列でアンダーバー（_）のところには、スペースを入力します。

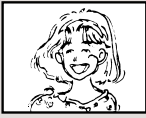
RGB入力信号(推奨信号)一覧表

下表は本機が対応している信号モード一覧です。映像が乱れる、映らない等の問題がある場合は、下表を参考にコンピュータなどの出力信号を調整してください。

コンピュータ

- 幅広い信号に対応
  水平周波数:15kHz ～ 70kHz
  垂直周波数:43Hz ～ 75Hz
  ドットクロック:12MHz ～ 80MHz
- シンクオングリーン信号に対応。
- 圧縮表示により、XGAに対応。

下表はVESA準拠モード一覧です。ただし本機はVESA規準以外の信号にも対応しています。

PC/MAC/WS	解像度		水平周波数(kHz)	垂直周波数(Hz)	VESA規格	DVIサポート信号	ディスプレイ
PC	VGA	640 × 350	27.0	60			拡大表示
			31.5	70			
		720 × 350	27.0	60			
			31.5	70			
		640 × 400	27.0	60			
			31.5	70			
		720 × 400	27.0	60			
			31.5	70			
		640 × 480	26.2	50		✔	
			31.5	60	✔	✔	
			34.7	70		✔	
			37.9	72	✔	✔	
			37.5	75	✔	✔	
	SVGA	800 × 600	31.4	50		✔	
			35.1	56	✔	✔	
			37.9	60	✔	✔	
			44.5	70		✔	
			48.1	72	✔	✔	
			46.9	75	✔	✔	
	XGA	1,024 × 768	35.5	43	✔	✔	圧縮表示
			40.3	50		✔	
			56.5	70	✔	✔	
			58.1	72		✔	
	—	1,280 × 720	45.0	60		✔	
PC/MAC 13"	VGA	640 × 480	34.9	67			拡大表示
MAC 16"	SVGA	832 × 624	46.8	75			
			49.6	75			
PC/MAC 19"	XGA	1,024 × 768	48.4	60	✔		圧縮表示
			60.0	75	✔		

メモ

- 本機は、同時（CRT/LCD)モードでノート型コンピュータからの映像を表示できない場合があります。この場合は、ノート型コンピュータ側で液晶表示をオフにして"CRTのみ"モードで表示データを出力してください。表示モードを変更するための詳細はお持ちのノート型コンピュータの取扱説明書に記載されています。

DTV

入力信号(有効走査線数)	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (Hz)
525I (480I)	15.7	60
525P (480P)	31.5	60
540P	33.8	60
625I (576I)	15.6	50
625P (576P)	31.3	50
750P (720P)	45.0	60
1125I (1080I)	28.1	50
1125I (1080I)	33.8	60
1125I (1035I)	28.1	50
1125I (1035I)	33.8	60

故障かな？と思ったら

こんなとき	ここをお調べください	ページ
映像が出ない	● 電源プラグがコンセントから抜けていませんか。	30
映像が出ない	● 接続した外部機器の電源が「切」の状態になっていませんか。	-
映像が出ない	● 表示させる画面の選択（入力切換）がまちがっていませんか。	31
映像が出ない	● プロジェクター後面の配線は、正しく接続されていますか。	21～29
映像が出ない	● ノート型コンピュータを接続しているとき、外部出力状態に設定されていますか。 ● 「コントラスト」と「明るさ」が最小の値に調整されていませんか。	- 44
色がうすい、色あいが悪い	● 映像調整は、正しく調整されていますか。	44
色がうすい、色あいが悪い	〈ビデオ入力のとき〉 ● ビデオの映像信号方式は正しく設定されていますか。 ● 入力5の映像を投映しているときは、入力信号タイプのRGB/色差が正しく設定されていますか。	 50 50
画面表示が出ない	● OSD表示が「 」に設定されていませんか。	49
映像がボヤける ノイズが発生する	● レンズのフォーカスは合っていますか。	32
映像がボヤける ノイズが発生する	● 投映距離が、フォーカスの合う範囲を超えていませんか。	19
映像がボヤける ノイズが発生する	〈コンピュータ入力のとき〉 ● 同期調整(クロック調整)を行ってみてください。 ● 同期調整(位相調整)を行ってください。 ● コンピュータによってはノイズが発生することがあります。	47 -
キャビネットから時々「ピシッ」と音がする	● 画面に異常がない場合、室温の変化によりキャビネットが、わずかに伸縮する音です。性能その他に影響はありません。	-
お知らせ表示が点灯する	● 「お知らせ表示について」をご覧ください。	56
リモコンが 正しく動作しない	● 乾電池が消耗していませんか。 ● 乾電池は正しく入っていますか。	15
冷却ファンの音が 急に大きくなる	● 周囲温度が高くなっていませんか。 ● 吸気孔の清掃を実施してください。 ● 壁との距離は適切ですか。	10 55
電源を入れるとき、ランプが点灯するまで時間がかかる	● ランプは消耗品です。 寿命が近づくと点灯しにくくなることや映像が暗くなることがあります。 ランプを交換してください。	59
映像が暗い	● ランプは消耗品です。 寿命が近づくと点灯しにくくなることや映像が暗くなることがあります。 ランプを交換してください。	59
入力5の色差入力モードで画面が緑がかる	● 入力信号タイプが正しく設定されていますか。	50
入力5のRGBモードで画面がピンクがかる	● 入力信号タイプが正しく設定されていますか。	50

本機はマイコンを使用した機器です。外部からの妨害ノイズや誤った操作により、正常に動作しない事があります。正常に動作しないときは、一度、電源プラグをコンセントから抜き、約5分以上おいてから再びコンセントに差し込んで電源を入れ直してください。

アフターサービスについて

保証書（別添）

- 保証書は「お買いあげ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取ってください。保証書は内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

- **保証期間**
  - 光源(ランプ)以外の部品代および修理工料は、お買いあげの日から１年間は無料です。
  - 光源(ランプ)およびその修理工料は、お買いあげの日から６ヵ月は無料です。
    （６ヵ月以内でも使用時間が1,000時間を超えているときは、保証の対象となりません。）

ご不明な点や修理に関するご相談は

- 修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買いあげの販売店、またはもよりのシャープお客様ご相談窓口（**66**ページ）にお問い合わせください。

補修用性能部品の保有期間

- 当社は、プロジェクターの補修用性能部品を製造打切後、8年保有しています。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるときは　出張修理

- 「故障かな？と思ったら」（**64**ページ）を調べてください。それでも異常があるときは、使用をやめて、必ず電源プラグを抜いてから、お買いあげの販売店にご連絡ください。

ご連絡していただきたい内容

品　　　名：シアタープロジェクター
形　　　名：XV-Z2000
お買いあげ日：(年月日)
故障の状況：(できるだけ具体的に)
ご　住　所：(付近の目印も合わせてお知らせください。)
お　名　前：
電話番号：
ご訪問希望日：

保証期間中
修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金のしくみ
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

便利メモ　お客様へ…
お買いあげ日・販売店名を記入されると便利です。

お買いあげ日	販　売　店　名
年　　月　　日	電話（　　）　　—

お願い

ランプは消耗品です。使用中にランプが切れることがありますので、あらかじめご承知ください。映像が暗くなったり、色合いが悪くなるなどの症状がでたときは、早めにランプを交換してください。

長年ご使用のプロジェクターの点検を！
こんな症状はありませんか？
●電源コードやプラグが異常に熱い。●電源を入れても映像が出ない、また出るまでに時間がかかる。●画面が映ったり、消えたりする。●映像が乱れたり、色がきれいに出ない。●その他の異常や故障がある。

このような症状のときは本体の電源を切り、プラグをコンセントから抜き、使用を中止し、故障や事故の防止のため必ず販売店に点検をご依頼ください。なお、点検·修理に要する費用は販売店にご相談ください。

お客様ご相談窓口のご案内

修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼は、お買いあげの販売店へご連絡ください。

転居や贈答品などで、保証書記載の販売店にご相談できない場合は、下記窓口にご相談ください。

- 製品の故障や部品のご購入に関するご相談は ……………… **修理相談センター** へ
- 製品のお取扱い方法、その他ご不明な点は …………………… **お客様相談センター** へ

修理相談センター

● **修理相談センター(沖縄・奄美地区を除く)**

■受付時間　＊月曜～土曜：午前9時～午後6時　＊日曜・祝日：午前10時～午後5時　(年末年始を除く)

0570 - 02 - 4649

当ダイヤルは、全国どこからでも一律料金でご利用いただけます。
呼出音の前に、NTTより通話料金の目安をお知らせ致します。

(注) 携帯電話・PHSからは、下記電話におかけください。

		<東日本地区>	<西日本地区>
○ 携帯電話／PHSでのご利用は ………………	一般電話	043 - 299 - 3863	06 - 6792 - 5511
○ FAXを送信される場合は ………………………	FAX	043 - 299 - 3865	06 - 6792 - 3221

○ 沖縄・奄美地区については、下表の「那覇サービスセンター」にご連絡ください。

◎ **持込修理および部品購入のご相談** は、上記「修理相談センター」のほか、
下記地区別窓口にても承っております。

■受付時間　＊月曜～土曜：午前9時～午後5時30分(祝日など弊社休日を除く)
〔但し、沖縄・奄美地区〕は……＊月曜～金曜：午前9時～午後5時30分(祝日など弊社休日を除く)

担当地域	拠点名	電話番号	郵便番号	所在地
北海道地区	札幌サービスセンター	011-641-4685	〒063-0801	札幌市西区二十四軒1条7-3-17
東北地区	仙台サービスセンター	022-288-9142	〒984-0002	仙台市若林区卸町東3-1-27
関東地区	さいたまサービスセンター	048-666-7987	〒331-0812	さいたま市北区宮原町2-107-2
	宇都宮サービスセンター	028-637-1179	〒320-0833	宇都宮市不動前4-2-41
	東京テクニカルセンター	03-5692-7765	〒114-0013	東京都北区東田端2-13-17
	多摩サービスセンター	042-586-6059	〒191-0003	日野市日野台5-5-4
	千葉サービスセンター	047-368-4766	〒270-2231	松戸市稔台295-1
	横浜テクニカルセンター	045-753-4647	〒235-0036	横浜市磯子区中原1-2-23
東海地区	静岡サービスセンター	0543-44-5781	〒424-0067	静岡市清水鳥坂1170-1
	名古屋サービスセンター	052-332-2623	〒454-8721	名古屋市中川区山王3-5-5
北陸地区	金沢サービスセンター	076-249-2434	〒921-8801	石川郡野々市町御経塚4-103
近畿地区	京都サービスセンター	075-672-2378	〒601-8102	京都市南区上鳥羽菅田町48
	大阪テクニカルセンター	06-6794-5611	〒547-8510	大阪市平野区加美南3-7-19
	神戸サービスセンター	078-453-4651	〒658-0082	神戸市東灘区魚崎北町1-6-18
中国地区	広島サービスセンター	082-874-8149	〒731-0113	広島市安佐南区西原2-13-4
四国地区	高松サービスセンター	087-823-4901	〒760-0065	高松市朝日町6-2-8
九州地区	福岡サービスセンター	092-572-4652	〒816-0081	福岡市博多区井相田2-12-1
沖縄·奄美地区	那覇サービスセンター	098-861-0866	〒900-0002	那覇市曙2-10-1

お客様相談センター

■受付時間　＊月曜～土曜：午前9時～午後6時　＊日曜・祝日：午前10時～午後5時　(年末年始を除く)

東日本相談室	TEL 043 - 297 - 4649	FAX 043 - 299 - 8280	〒261-8520 千葉県千葉市美浜区中瀬1-9-2
西日本相談室	TEL 06 - 6621 - 4649	FAX 06 - 6792 - 5993	〒581-8585 大阪府八尾市北亀井町3-1-72

●所在地・電話番号などについては変更になることがありますので、その節はご容赦願います。(04.09)

仕様

品　　　名	シアタープロジェクター
形　　　名	XV-Z2000
表　示　方　式	単板DMD™ カラーホイール色分離方式
パネルサイズ	0.8 型　16：9 DLP™方式
画　素　数	921,600（1,280×720）ドット
レ　ン　ズ	1.5倍電動ズーム／フォーカスレンズ F2.0～2.5　f21.3～31.6mm
ラ　ン　プ	275W
定　格　電　圧	AC 100 V～ 240 V
定格周波数	50/60 Hz
消　費　電　力	AC100V時：360W（標準モード）／315W（エコモード時）
消費電力（電源スタンバイ時）	6 W（AC100 V）
使用温度範囲	5 ℃～35 ℃
保管温度範囲	-20 ℃～60 ℃
ビデオ入力対応	BSデジタルハイビジョン放送対応（525I/525P/750P/1125I） NTSC/PAL/PAL-M/PAL-N/SECAM
コンピュータ対応	解像度：VGA/SVGA/XGA
入力端子　コンポーネント入力	Y, P_B（C_B）, P_R（C_R）：RCAピン端子（INPUT1/2）
入力端子　DVI端子	DVI端子29ピン（INPUT5）
入力端子　ビデオ入力	S映像入力端子（INPUT3）：4ピンミニDINコネクタ
	ビデオ入力端子（INPUT4）：RCAピン端子
RS-232C端子	9ピンミニD-sub端子
リモコン受光部	前面×1、背面×1
キャビネット	プラスチック
外　形　寸　法	幅 310 mm、奥行 282 mm、高さ 89 mm（突起部除く）
質　　　量	約 4.3 kg
＜付属品＞	•リモコン　•単3乾電池×2本　•レンズキャップ（装着出荷）　•電源コード　•取扱説明書（本書）　•保証書

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

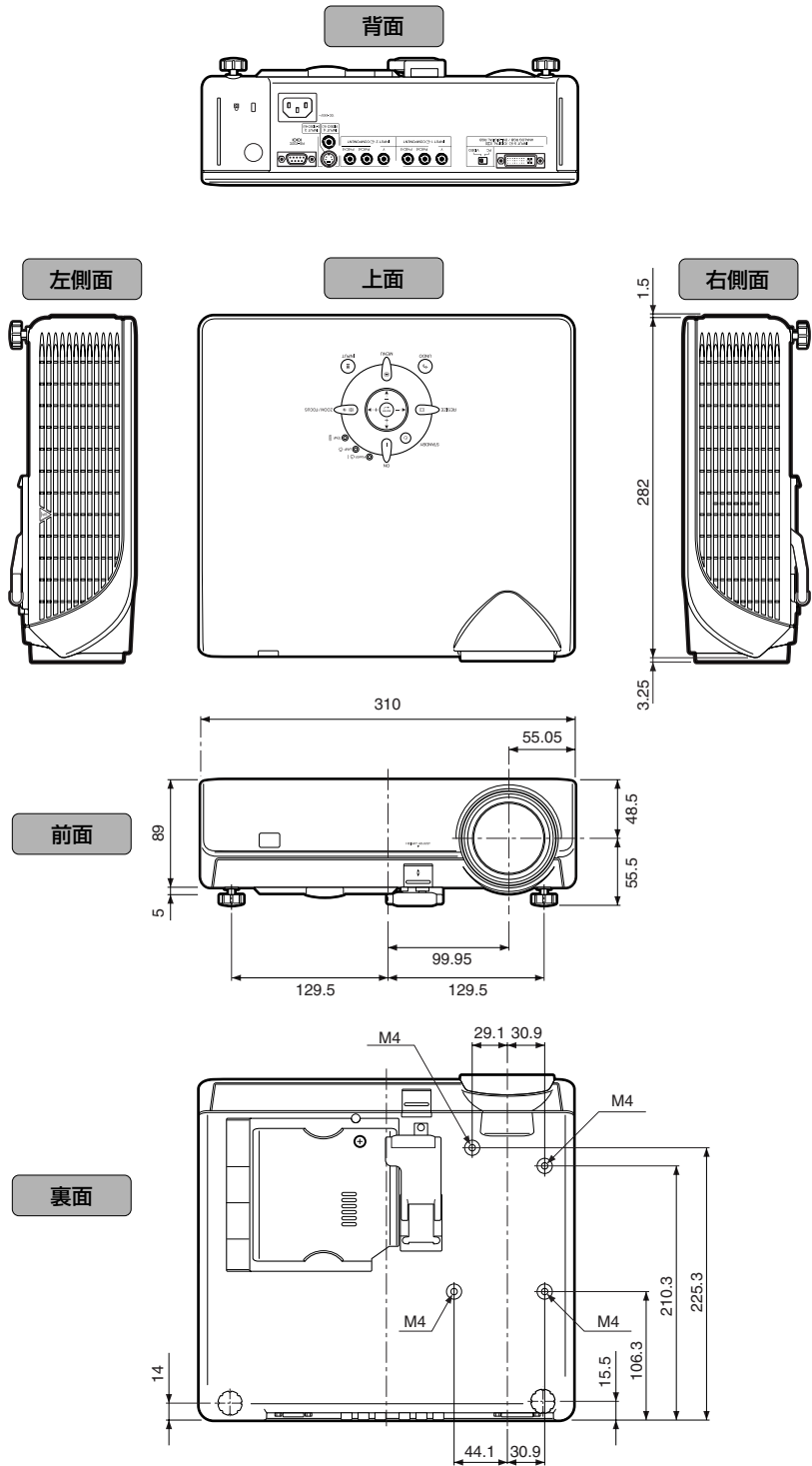
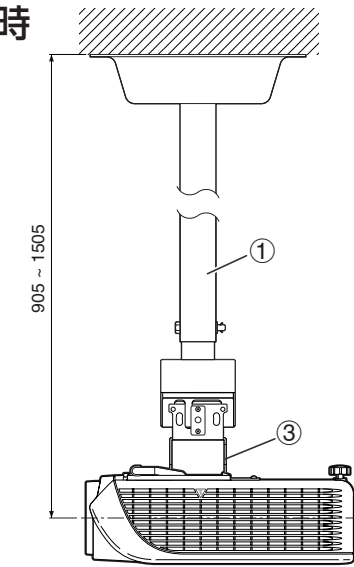
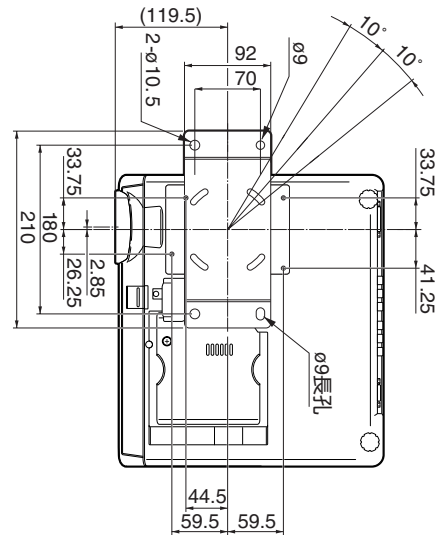
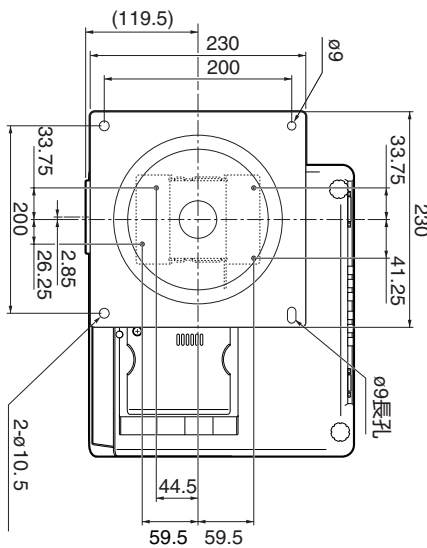
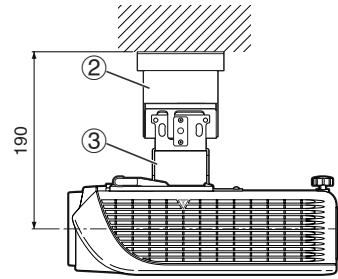
お願い

- **DMD™素子は非常に精密度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しない画素や常時点灯する画素がいくらかある場合があります。また、見る角度によって色むらや明るさむらが見える場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。**
- **ランプは消耗品です。使用中にランプが切れることがありますので、あらかじめご了承ください。映像が暗くなったり、色合いが悪くなるなどの症状がでたときは、早めにランプを交換してください。**

寸法図

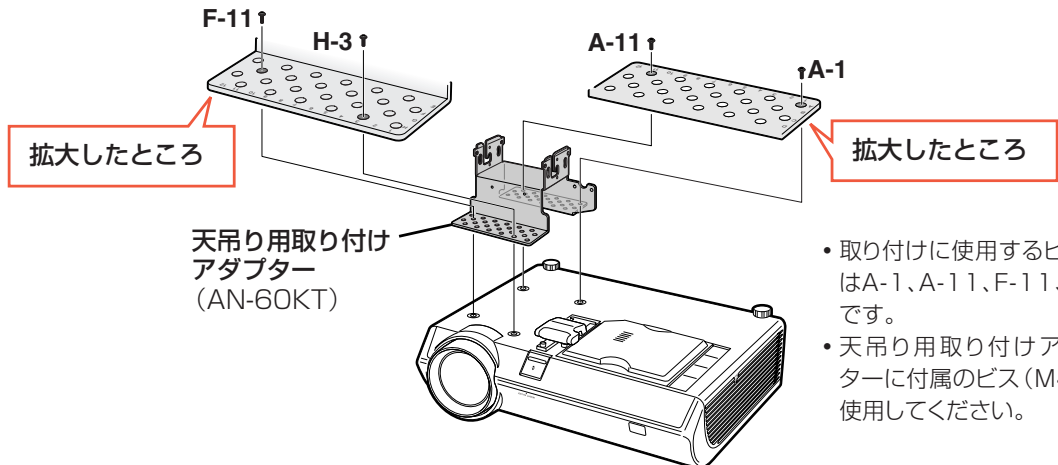
■本体

単位：mm

背面
左側面
上面
右側面
1.5
282
3.25
310
55.05
前面
89
5
48.5
55.5
99.95
129.5
129.5
M4
29.1
30.9
M4
裏面
M4
M4
210.3
225.3
14
15.5
106.3
44.1
30.9

■天吊り時

	品名	型名
①	高天井用取り付けユニット	AN-TK201
②	低天井用取り付けユニット	AN-TK202
③	天吊り用取り付けアダプター	AN-60KT

■天吊り用取り付けアダプター(別売品)の取り付けかた

- 取り付けに使用するビス穴はA-1、A-11、F-11、H-3です。
- 天吊り用取り付けアダプターに付属のビス(M4)を使用してください。

付録

用語集

RS-232C
コンピュータからプロジェクターを制御するときに使用する端子です。

圧縮表示/拡大表示
解像度が低い、または高い映像を投映する場合、プロジェクターの解像度に合わせて映像の画像サイズを調整します。

色温度
プロジェクターに入力された映像のタイプに合わせて、色温度を調節する機能です。自然な肌色を表現したいときは、色温度を下げて、温かさ、赤っぽさを強調し、より明るい画像にしたいときは、色温度を上げて、冷たさ、青っぽさを強調します。

画面サイズ
入力された映像の画質をよくするために、画面サイズを切り換えることができます。「スクイーズ」、「標準」、「ワイド」、「ズーム」から選択できます。

ガンマ補正
映像の違いや、部屋の明るさの違いにより映像が見にくい場合、映像の暗い部分をより明るくして映像を見やすくする機能です。

キーストーン補正
プロジェクターの映像を投映したとき、台形に歪んだ映像をデジタル補正するための機能です。

クロック調整
コンピュータ入力時、画面の縦方向に出る帯状のノイズを低減するための調整です。

自動同期調整
コンピュータの画像を最良な状態で投映する機能です。

水平位相
同じ解像度を保ったまま、走査のタイミングを調整します。水平位相が最適でないとき、横方向のノイズをともなって、映像がチカチカします。

ズーム
4：3レターボックスの映像を投映したとき、上下の黒帯をカットし、ワイド画面で表示するモードです。

スクイーズ
16：9の画面で表示するモードです。

縦横比
映像の横・縦の比率です。コンピュータやビデオにおける通常の縦横比は4：3です。縦横比が16：9/21：9という横幅の広いワイド映像もあります。アスペクト比と呼ばれる場合もあります。

無信号時画面
信号が入力されていないときに投映される初期設定映像です。

ワイド
4：3の画面を、画面の中心部付近の縦横比を維持しながら、画面の左右だけを引き伸ばして、ワイド画面で表示するモードです。

索引

記号英数

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行